

子どもと大人で楽しむ、学ぶ / けんり じょうやく

子どもの権利条約

フォーラム 2023

inとよた

かいさい

開催スケジュール

11.25 土

オンライン
配信あり

豊田参会館10階
豊田市コンサートホール

全体会の
中継あり

豊田市
コンサートホール
多目的ルーム

豊田市駅東口
まちなか広場
(旧とよしば)

(12:30から受付開始)

〈全体会〉

- 13:30 ● オープニング
- 基調講演
- 全国の事例発表
- パネルディスカッション
- 17:00 ● エンディング

13:00

おやこで
あそぼう！
ほっとスペース

16:00

10:00

出張！
ブチブチパーク

13:00

豊田参会館
1階アトリウム

16:00
とよたの
名品販売

18:00

パネル展示 12:30-17:30

フォーラム30年のあゆみ

会場 豊田市コンサートホール 10階

11.26 日

豊田産業文化センター
(1~4階)
豊田商工会議所

豊田産業文化センター
2階 図書情報コーナー

豊田産業文化センター
1階 多目的ホール
4階など

10:00 分科会【午前】
(分科会No.7は9:30~)
分科会は各回15分前から受付開始

12:00

13:30 分科会【午後】
分科会は各回15分前から受付開始

15:30

16:15 クロージング
フォーラムの振り返り 未来に向けて

17:15

オンライン
配信あり

10:00

おやこで
あそぼう！
ほっとスペース

15:00

豊田産業文化センター
1階 産業交流コーナー

12:00

ゆかいに
どんちゃん
大道芸

16:00

11:00

子ども企画
発

16:00

パネル展示 10:00-17:40

会場 豊田産業文化センター 1・2階

物販 子どもの権利条約に関する書籍等展示・販売 10:00-16:00

会場 豊田産業文化センター 交流サロン

キッチンカマルシェ 10:00-16:00

会場 豊田産業文化センター ビロティ



当日配布パンフレットより

全 体 会

実施時間 13:30～17:00 **実施場所** 豊田市コンサートホール

参加者数 会場参加700名 オンライン参加367名

担当スタッフ 舞台：磯村美沙希 舞台裏：高橋弘恵、葛山有咲、伊藤佳祐 会場：菅井真紀
 受付：酒井美輝、山本貴美子、木村宏江、中村栄子 ツリー：鈴木佳代、猪飼由美子
 フリー：安藤順

実施内容

《目的》子どもの権利条約に自分たちのことが書かれていることを知らない子どもたちに。そして本来であればそれを教える立場のあらゆる大人たちに。原点に立ち返り、国際人権条約そのものの尊さを、ストレートに伝える。日本人初の国連子どもの権利委員会委員となった大谷美紀子さんの存在を通じて、条約を知って感じてもらう。また、たくさん子どもたちが自分の考えや気持ち、想いをいろいろな形で表明したり表現したり出来る機会となること。さらに参加者が、子どもの権利条約について噛み砕き、深められる場になること。



《何をやったか》

- | | |
|---|--|
| <p>①オープニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ■合唱「世界中の子どもたちが」
(豊田市少年少女合唱団) ■ようこそ豊田ムービー(豊田市子ども会議) ■開会宣言 ■あいさつ(実行委員長/豊田市長) ■こども家庭庁ビデオメッセージ <p>②フォーラム30年のあゆみ*</p> <p>③基調講演*</p> <p>④子どもの権利条約に親しむコーナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「Loop」
(こどものけんりフレンズpresents歌プロジェクト) ■親しむムービー | <ul style="list-style-type: none"> ・条約に親しむムービー ・子どもの権利条約を中学校の生徒手帳に載せるまで
(フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 子どもアンバサダー) <p>⑤全国の事例発表</p> <p>川崎市子ども会議/
 子どもの権利条約関西ネットワーク/
 とやま子どもの権利条約ネット/
 豊田市子ども会議/名古屋市緑児童館</p> <p>⑥パネルディスカッション*</p> <p>⑦エンディング</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「ビューティフルネーム」「にじ」
(子どもと大人による合奏) |
|---|--|

注)*印は後ろに詳しく記載。他、資料ページに詳細あり。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

パイプオルガンを有する国内屈指のコンサートホールでの開催とあって、地元の少年少女合唱団を起用するなど、場所の特徴を生かしてフォーラムの開会に花を添えることができた。洗練された子どもたちの歌唱でオープニングをし、子どもたちとゆるく関わる活動をする大人たちが客席も一体となってゆるゆると歌うエンディングで締めるというプログラムは、市民レベルで創りあげた豊田開催ならではの光景だったのではないかと自負している。

しかし、場の設定、基調講演や事例発表、パネルディスカッション等のプログラム企画に子どもたちが参画することができず、大人達だけで決めた会になってしまったことが悔やまれる。また、素人集団での運営ゆえ、受付が混乱・混雑するなど設定に不備が出た点は反省したい。

そんな中、せめてもの協働として設定した司会者や出演者、影アナウンス、舞台スタッフに、小中学生の子どもたちが能動的に参加してくれた事は、大変意義深いと感じている。彼らなしでは「あたたかな雰囲気だった」と評されるこの会の空気は創出し得なかった。改めてこの場を借りて謝意を伝えたい。

フォーラム30年のあゆみ

講師 喜多明人さん
(子どもの権利条約ネットワーク代表)

子どもの権利条約フォーラムは今回で31回目であり、毎回、子どもと市民の出会いやつながりを大切にしてきた。「赤字になったら補填します。黒字になったら最終報告書を作ってください」と呼びかけた結果、今、最終報告書が30年分、さらに子どもの声から、まとめることになった30枚のパネルが私のもとにある。まず初めに、2004年(茨城県)のパネルに載っている「気づきのルール」を推奨。子どもとおとなが初対面で話し合うためのルールなのだが、なぜ「気づきのルール」となったかが明記

してある。守らなかった時の罰則を作ろうという意見に対して、子どもから「今だけ守っても意味がないから罰則は必要ない」「気づいてほしいね」という発言からつけられたものだ。ぜひ一度じっくり読んでほしい。おとなが子どもから学ぶことがたくさんある。次にフォーラム「子ども語録」から2つ紹介された。1つ目は、1994年(東京都)、子ども団体の実践交流「子どもアクション広場」で青森県の子どもが残した言葉。大阪の子どもたちが丸刈り校則をやめさせるよう文部大臣へ訴える活動について「社会を動かす活動」と称賛した。2つ目は2000年(群馬県)権利と義務についての激論について。「権利には義務が対だ」という群馬に対して大阪の子どもたちは「権利に義務は伴わない」という意見でついには会場を出ていくという事態にまでなった。最後に、2001年(青森県)大人の支援なしに活動資金を自ら得ているグループWAVE桜について紹介し、30年を振り返った。



(報告: 齊藤美紀、金山紀子)



基調講演

子どもの権利を知り学ぶ ～子どもの人権が守られる社会のための第一歩

講師 大谷美紀子さん
(国連子どもの権利委員会委員)

はじめに

今日は、子どもの権利を知り学ぶ、子どもの権利が守られる第一歩。ということで人権教育について話したいと思う。すべての人の人権が守られる大事な第一歩になる話をしたい。私は子どもの頃から、将来は社会のためになる仕事がしたいと思っていた。高校生の時に国連を知り、世界平和のために働こうと思い大学に入り、法律を学び憲法を学ぶ中で人権を知った。1990年に弁護士になったが、実際の社会にはたくさんの差別があり、困っている人が弁護士にたどり着くのも大変な時代だった。

第1回子どもの権利条約フォーラムが1993年と聞いたが、1993年というのは私にとってとても意味のある年で、1つは「ウィーン世界人権会議」で初めて「人権教育の大切さ」を知った年、もう1つは「子どもの権利条約」を初めて知った年だった。子どもの権利条約について勉強する機会があり、中でも29条の条文に惹かれ、感動した。29条は簡単に言うと【人権の尊重を育成することが子どもの教育の目的の1つ】大人の私たち一人一人が人権について知っていくことが社会を作る第一歩ではあるけれど、生まれたてのまっさらな赤ちゃんが家庭の中で、学校で、地域の中で一番最初から自分のことを大切に。みんな同じ人間として大事にされ、大事にする。違いがあってもすべての人に同じ価値がある。人権という言葉を使わなくてもそれ



ができていれば素晴らしい。

今年は国連が世界人権宣言をして75周年。来年は子どもの権利条約ができて35周年、日本がこの条約に入って30周年になる年。日本ではこども基本法ができ、こども家庭庁ができ、とても大事な時にこのフォーラムに呼んでもらい、「子どもの権利を知り学ぶ」ことについてお話しさせてもらえたことはとてもありがたいと思う。

「子どもに権利を教える」ということ

子どもの権利委員会では、条約に入った国がちゃんと条約を守っているか審査をする。その時に、すべての国に、子どもの権利条約を学校教育の中で教えているか。ちゃんとカリキュラムに入れてくださいと勧告している。

「子どもに権利を教える」ということに対して世界では抵抗感が強い。子どもに権利を教えると、自己主張の強いわがままな子になる

のではないか。子どもをコントロールできなくなるのではないか。という声をよく聞く。35年たってもまだまだ十分に理解されていないことを日々感じる。委員会では2000年代に入ってから、世界に共通する課題だと思ふ問題を取り上げ、“一般的意見”を作るようになった。これは、全ての国に対して「この問題について委員会ではこのように考えている。このように取り組んでほしい」という勧告である。現在26個あるが、その第1号は29条1項『子どもの教育の目的』に対するものだった。これを最初の“一般的意見”として取り上げたことこそ、委員会が子どもの権利条約を世界に浸透させようとする中、ずっと抵抗にあって大変だったことを物語っている。

子どもに権利を教えるということは、子ども自身が本当に幸せになる、人間としてその才能を最大限発揮するため。権利を知ると同時に他の人にも権利があることを知る。大人になって自分の権利を行使しつつ、他の人の権利も守りながらやっていくようになる。子どもの権利に対する世界からの懸念に対して答えたのがこの“一般的意見”第1号である。

残念ながら、近年世界において「人権」「子どもの権利」「ジェンダー」等についてバックラッシュ(反動)が起きている。もう一度ここで「子どもに権利を教える」ことがなぜ重要なのかを考えることは、とても意味があると思っている。



「権利と義務」について

「子どもに権利を教えるのなら、義務も教える必要があるのではないか」という議論を日

本ではよく聞くが、世界ではあまり聞かない。なぜかを深掘ってみると、私の考えではあるが、日本では「人権」と聞くと「世界人権宣言」より「日本国憲法」を思い浮かべるのではないか。日本国憲法の中にある『権利と義務』という言葉の影響が大きいのではないかと思う。また、日本だけではないが、年長者を敬うようにとか、家族やコミュニティとの調和を大切にするとか、何々しなければならぬと強調されている社会がある。日本もそういうところがあるので、義務というのが強調されるのではないかと思う。『権利と義務はセット』という話はある意味間違いではないが、誰が権利を持っていて、誰に義務があるのかということまで掘り下げて考える必要がある。

子どもの権利条約を含む国連が作ってきた人権条約といわれるものでは、権利を持っているのは私たち一人ひとり。子どもの権利条約でいえば18歳未満の人すべて。そして義務を負っているのは国、子どもを育てている側の大人である。大人みんなが子どもの権利を守る義務がある。これが人権について考える時の「権利と義務はセット」だということだ。

「子どもに権利がある」というのはどこからきているかということ、子どもも大人もすべての人には同じ価値がある。障がいの有無・ジェンダー・出身などに関係なく、大人も子どももすべての人が、人間が人間として大事にされ、尊重され、尊厳をもって生きていく。という「世界人権宣言」の観点からきているものである。「子どもには権利＝人権がある」このことを日本の中でもう一度伝えていく必要があると思っている。

子どもが人権について学ぶために大事なこと

家庭でも学校でも地域社会でもメディアでも、子どもたちが生活するすべての場で同じメッセージを受け取ることが大事。環境によって違くと子どもは混乱する。すべての環境で人権が守られる。差別がない。ということを一貫していくことが大事。

子どもの権利を知り学ぶといっても大事な

のは大人側。子どもに接する大人自身の言葉遣いや態度から、子ども自身が権利があることを感じられるように、大人側は勉強しなくてはならない。知識だけでなく、実践していかなければならない。大変なことだけど、子どもが権利を知り学ぶということが、人権を守られる社会に変革していく力を持っているから大事なのだと思っている。

おわりに

今回のフォーラムのテーマ～「しってる」から「○○」へ～で私自身の○○について
まず知ることが第一歩。

それを使ってみる。言ってみる。

例えば、自分自身の意見を持つことも権利を使うことなのだが、これすら日本では難しいことが多い。それを発表するとなるとさらに勇気がいる。

友達との話やテレビで見た問題を子どもの権利と結び付けてみるだけでも権利を実現していくことになる。

世界(日本の中にも)には貧困があり、戦争・紛争があり、気候変動による環境問題が深刻であり、感染症の問題もある。またAIなどのテクノロジーがどんどん進歩し発達していく。これからの子どもたちが生きていく世界は今まで以上に困難もあり、みんなで立ち向かっていかなくちゃいけない、解決策を考えていく時代になる。そんな中で、子どもの意見表明権、参加する権利は子どもにとってはとても重要で、大人にとっても本当の意味で子どもをこれからの社会を共に生きていくパートナーとして認めるために必要だ。もちろん責任は大人にあるが。

子どもの想像力・創造力を大人がどこまで引き出せるか、どうしたら言いやすい環境を作れるか、子どもから聞いたことを活かす仕組みを作れるか、大人の努力が求められる。この様なことを来年も一緒に考えていきたいと思う。今日のフォーラムが今後につながる重要な節目になる。私の話が少しでも参考になればうれしい。

(報告: 弥田美雪、滝澤史恵、金山紀子)



川崎市子ども会議



子どもの権利条約関西ネットワーク



とやま子どもの権利条約ネット



豊田市子ども会議



名古屋市緑児童館



子どもの権利条約を中学校の生徒手帳に載せるまでムービー

パネルディスカッション

登壇者

- パネリスト** 大谷美紀子さん：国連子どもの権利委員会委員
阿部史及さん：川崎市子ども会議、中学2年生
佐伯椿季さん：とやま子どもの権利条約ネット、高校1年生
柴田ももさん：かわさき子どもの権利フォーラム、中学1年生
中村美優さん：豊田市子ども会議、高校1年生
二葉日葵さん：子どもの権利条約関西ネットワーク、高校2年生
宮崎捺生さん：認定NPO法人国際子ども権利センター・シーライツ、大学3年生
山下拳聖さん：名古屋市緑児童館、中学3年生
- ファシリテーター** 安藤さち子さん：(一社)かのこ／くららファシリテーター事務所／豊田市
若杉逸平さん：(一社)ひらけエデュケーション／ひらけごま。／名古屋市

ディスカッション

舞台に木製、金属製、ソファなど、高さも様々な椅子が並び、登壇者は思い思いの椅子に座っている。

自己紹介の後ディスカッション。

テーマは『1,000人の人に“ききたいこと”“きいてほしいこと”』



思い思いの椅子に座る登壇者

*発言については敬称略、ファシリテーターはFと付けた。

学校は子どもが関わる場なのに
大人が決めてしまうのはなぜか

<柴田>

学校は子どもが関わる場なのに大人が決めてしまうのはどうしてなのか。コロナで休校になった時の大人(先生)の対応はどうだった？

<山下>

授業再開後、スピードアップして追いつくのが大変だった。もっとオンラインで授業をするなどできなかったのか。

<F安藤>

先生が決めてしまうことについてなにかありますか？

<宮崎>

当時は高校3年生。文化祭の開催について生徒へのアンケートでは開催方向だったが、結局中止に。しかし、大人の中止の判断についてもわかると思った。

<中村>

中学生で吹奏楽部に所属。屋外で練習し、指揮者を見ずに吹き、不満だった。

<二葉>

緊急時は、大人に決めてもらうことも必要と思うが、子どもの意見を聞いてほしい。子どもを議論の中に入れていないのが今の学校だ。子どもの意見を聴く仕組みづくりをしてほしい。

<阿部>

コロナの時にも子どもが決めたので、最終的に中止になったが嫌ではなかった。

<佐伯>

小学校の卒業式で在校生の歌が無くなったが、代わりに先生たちが歌ってくれて、大人が子どものために代替え案を考えて行動してくれた。



子どもの声は聴かれている?いない?

<中村>

中学生の時の生徒会が校則見直しに対して動いてくれた。子どもの声で動く生徒会のような組織があるとよい。子どもの声を聴いてほしい。

<F安藤>

(宮崎さんの)高校文化祭で生徒アンケート結果では開催だったのが、中止になったことは、子どもの勇気をくじく出来事だと思う。何か小さなアクションで変えられた経験がある人はいますか?

<阿部>

学級委員長の立場で、“先生の話が長いので簡潔に”と伝えたら、直してくれた。

<山下>

全校生徒が入れることができる意見箱が設置された。どのような変化があるかはわから

ないが、変わっていくのだろう。

<佐伯>

中学校の生徒指導の先生がよい人で、委員会を作って靴と靴下指定の校則見直しを実現した。その先生が異動したら委員会もなくなってしまったが、小さなアクションでも変えられることを体験した。

<柴田>

上の階の教室の机を引きずる音の問題を生徒会が取り上げ、体育祭で使った軍手を再利用して机の脚にはめることで解決した。

子どもが子どもの権利を知る大切さ (大人も一緒に学ぼうよ!)

<二葉>

部活内の上下関係を「意味わからん」と感じ、自分が部長になり仕組みを変えた。これまでに自分の声がきっかけで変わった経験があったからできたことかもしれない。

<宮崎>

小・中・高校時代にそういった経験がない。子どもの権利条約のことを知ったのが大学2年生になってからだったからかもしれない。中学校に意見箱はあったが活用されていないようだったし、“子どもの権利条約を知っている人”と“知らない人”ではこんなにも経験が違うのかと、(今話を聴いて)実感している。

<F若杉>

高校で18年間勤務していたが、子どもの権利条約のことを知らなかった。40歳の時に子どもNPOで知った。知ることは大事だとすごく思った。

<山下>

小学校6年生の時に学校で子どもの権利条約のチラシをもらったが、知るきっかけにはならなかった。学校の道德の時間で知らせてもよいのではないか。

<F安藤>

(大谷さんの基調講演にあった)子どもが権利を知ると(大人が)“子どもをコントロールできなくなる(子どもがわがままになるから知らないほうが良い)”という抵抗”があることについてどう感じますか?

<二葉>

「なんやねん」と思う。わがままと思えることを話している子どもは、きっと何か伝えたくて言っている。“子どもが権利を知るのがダメだ”というのがおかしな話で、人権学習で“差別はダメだ”ということを知ることと同じくらい、“子どもの権利を知る”ことは大事だ。

<山下>

人を殴るなど、子どもが悪い形で権利を行使しようとする時は“わがまま”だと思う。まず先生(大人)が子どもの権利を知り、どこまでが“権利”(の行使)でどこからが“わがまま”かを教えてくれればよいと思う。

<中村>

子どもの権利(を知ること)は、今苦しんでいる子どもにとって“安心材料(自己肯定感)”になるかもしれない。子どもの意見を一律に抑えるのはよくないのはもちろん、子どもの権利を教えないのではなく“大人が教え方を考える”機会にするのもよい。

<柴田>

大人にも“権利”や“人権”を学んでほしい。日本は子どもの権利条約が批准されてから20年あまりと日が浅く、今の大人がそれらを学んできていないのならば、子どもと大人が一緒に考えればよいのではないか。

どんな大人になりたいか

<佐伯>

ここ(フォーラム)にいる大人は安心感がある。子どもを安心させられるような大人になりたい。



<山下>

(子どもからの声に対して)大人からの外的な返答をされることがあるので、子どもの意見に寄り添える立派な大人になりたい。社会を変えたい。

<柴田>

ここにいる大人やメンバー(登壇者)みたいに、言ったことを受け止めて考えて行動する大人になりたい。社会をよりよくしていきたい。

最後に心にあることを

<山下>

舞台の上で真剣に話げできた。いい会になった。

<宮崎>

フォーラムに初参加で登壇した。壇上で話しを聴いていて、他の人の意見で気づきや発見があり楽しかった。

<佐伯>

たくさん話せた。発見もあった。“大人っていいな”って思う。話を聴いてくれる大人が身近に増えて欲しい。

<阿部>

同じ議題について話せるメンバーや聴いてくれた大人、こういう場を大人になっても作っていきたい。

<大谷>

(子どもの権利条約における)子どもの意見表明権は、全て子どもが決めるということではなく、子どもにとって何が一番いいか、子どもの年齢や成熟度に応じて大人が尊重していかなくてはならないもの。子どもの意見が通らなかったとき、大人は子どもに説明をしなくてはならないが、抑えつけがちだ。大人は子どものアイデアを取り入れることができるといいと思う。親も先生も大人は“人権”について学ぶ場がなかった。学校だけでなく児童館など地域で大人を支えていく必要がある。18歳の方は“子どもだった若者”として、次の子どもたちにどんどん思いを伝えてほしい。

<二葉>

(自分以外の)人の経験を聴けて楽しかった。

なりたい大人になるために、大会テーマに掲げられている“～「しってる」から「○○」へ～”の“○○”の部分に、“深く深く知りたい”と入れます。

<中村>

大人が決めたことを子どもに説明する時に“言葉が足りねえな”と思う。大人はめんどくさがらずに(子どもの)意見を聴き、説明してほしい。(子どもは)自分を卑下しがちなので、大人は話を聴いてほしい。聴いてくれる大人は子どもの権利を知っているからだと思う。もっと子どもの権利を知らせて、知っている大人が増えてほしい。



<柴田>

会場と人に感謝。めっちゃ楽しかった。こういう場があまりないのでもっとつくってほしい。もっと言いたいことがある。成長していきたい。

<F若杉>

この場にいられることに感謝。子ども・大人アドボカシー、自分の声を出せる人に。努力していきたいと思う。

<F安藤>

登壇者のみなさんは初対面だったが、楽屋でも意見交換が行われていた。今回のパネルディスカッションは大谷さんを囲んで有意義だった。

パネルディスカッションの ファシリテーターの声

<若杉逸平氏>

あのようなパネルディスカッションになっ

たのは、何よりも登壇者一人ひとりに想いやチカラがあったのだと思います。それは所属団体やいつもすごしている場で育まれてきたものだったのではないのでしょうか。そして、当日に会場全体を包み込んでいた雰囲気があったことで、登壇者に勇気や自信も与えていたように感じました。

また、話したいことは話していい、だけど無理して話さなくてもいい。そんな感じの場になるといいなあ私たちファシリテーターは考えているということ、当日出会ってから共にすごした時間の中で、言葉だけでなくお互いのあり方なども通して感じ合っていたと思います。

舞台では、半楕円のような形にしてお互いの顔が少しでも見えるように座りました。特に私たちファシリテーターは登壇者全員の顔が見えるような位置に座りました。パネルトーク中、声には出さなかったけれど、みんなで顔を見合わせながら、「大丈夫」と励まし合っていたように思います。

<安藤さち子氏>

初めて会う者同士で、しかもコンサートホールという大舞台。パネリストのみなさんがどうしたら1,000人に聴いてほしいこと聞きたいことを率直に語れるだろうか、と思った時に、まずは私自身が心をオープンにすること、されど馴れ馴れしくなりすぎず、ということに気をつけました。限られた時間の顔合わせの中で、それぞれが好きなことや今の気持ちなどをシェアしました。好きな椅子を持ち込む仕掛けも良かったと思います。椅子選びをしていると大谷さんが登場。会った瞬間に、非言語的にパネリストのみなさんを懐深く受容されたことが伝わってきました。舞台袖では、彼らの仲間たちも役目を終え安堵とともに、次第に場があたたまるのを感じていました。いよいよの時、心合わせに円陣を組む提案を。今回最年少パネリストの、「エイエイ! イェーイ!」はそれぞれが自分らしくあるためにこの上ない掛け声となりました。

(報告:大迫美奈子、知念綾子)

出張! プチ・プレーパーク

実施時間 10:00~13:00 実施場所 豊田市駅東口まちなか広場(旧とよしば)

参加者数 おとな60名 こども67名

担当スタッフ スタッフおとな21名

実行委員:三橋由佳、矢藤亜矢子、有馬直美、宮川華子

協力団体:いなぶプレーパーク/みんなのしきしまプレーパーク/とよたプレーパークの会/
みよしプレーパーク/中京大学レクリエーション部

印象に残った場面

地域のプレーパークが集まって、なんて豪華なプレーパーク!竹馬、ダンボール、たき火。最初は少し緊張していた子たちも、どんどん自分で楽しい遊びを広げていっていました。たき火にみんな集まってくる!たくさんの交流が生まれていました。今回、大学生さんがたくさん来てくれていて、子どもたちもとても嬉しそうでした。

参加者の声

「空間はそんなに広くないのに、遊んだり食べたり、遊びが広がる楽しさがいっぱいあって、小短い時間でも充実感たっぷりだった」「ボランティアの大学生たちが子どもたちの“もっと遊んで!”のパワーを受け止めてくれて、とっても素敵な空間と時間でした」

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

■複数のプレーパークに関わってもらえ、意見を合わせることに難しさも感じましたが、それぞれが大事にしていることを話し合えてよかったです。

■今回改めて、子どもの権利条約第31条の重要性を感じました。遊んだり休憩したり歌ったり食べたり、みんなの笑顔がいっぱい見られて嬉しかったです。街中で子どもが遊んでいる場所があるのって本当にいいですね。すごく楽しいプレーパークでした!



豊田市駅東口まちなか広場(旧とよしば) 豊田参合館1階アトリウム



出張！プチ・プレーパーク



～みんなの声～

● たき火をおこして、マシュマロやソーセージ焼きが始まると、みんな集まってくる！大人の参加者も、「マシュマロどうぞ」って差し出すと喜んでくれて、色々話すことができました。

● 小学生と大学生達がガムテープを丸めて作ったボールとラップの芯のバットで野球。マウンドの中やすぐ横を他の参加者さん達が歩く中で、みんな思い思いに動きながらもちゃんと周りを見ているんですね。

● サポーターの学生さんが小さい人たちに寄り添って一緒に楽しむ姿を見て、自分もそうありたいと思いました。

● 子どもより大人や大学生が夢中に！大人も子どもと一緒に楽しくしているのがなんかいいな～って思いました。誰もお世話する人や見ている人になってなくて、子どもも安心して遊ぶ、親も安心して遊ばせることができました。



ダンボールハウス、どんどん拡大中！



子どもも！大学生も！大人も！思いっきり外遊び

とよたの名品販売、30年あゆみパネル展示、受付、 総合インフォメーション

実施時間 13:30～17:00 ※とよたの名品販売は16:00～18:00

実施場所 豊田市コンサートホール ※とよたの名品販売は豊田参合館1階アトリウム

担当スタッフ 受付：山本貴美子、中村栄子、木村宏江、酒井美輝
とよたの名品販売：矢藤亜矢子
総合インフォメーション：鈴木英衣、小黑敦子、長谷由香、種村香絵

実施内容

《受付》

本フォーラムの申込方法の検討から当日の受付対応までを行った。子どもから大人まで多様な世代が来場するため、受付方法はPeatix(受付システム)及びメール、電話の3つで対応した。当日は申込方法によって窓口を4種類(Peatix、当日参加、来賓参加、総合受付)に分け、混乱なく終えることができた。

《とよたの名品販売》

全国各地から来た来場者が豊田市の名産を購入できるように地元の市場の方に依頼し販売コーナーを設けた。全体会開催中は来客が少なくなることが見込まれたため、開催終了後を中心とした時間帯で実施した。

《総合インフォメーション》

■迷子や落とし物、2日目の分科会等のご案内ができるようにスタッフが待機していた。実際には、落とし物の問合せ等が数件あった。

■フリーパーキングシステムが豊田市民以外はわかりにくいため、駐車券認証機の案内をした。

《30年のあゆみパネル展示》

受付を終えた目の前のスペースにフォーラム30年のあゆみをパネルに設置し、来場者に見てもらった。

今後に生かしていきたいこと、 担当スタッフの感想

申込み等でPeatixを利用したことは名簿の作成や管理の面で負担軽減につながった。一方でシステム等が苦手な方もいるので、メールや電話の手段も必要性を感じた(約30名程度(800名中))。



受付・総合インフォメーション



とよたの名品販売



30年のあゆみパネル展示

分科会開催にあたり

◆分科会開催団体募集説明会(全3回)と分科会開催団体交流会の開催。

◆フォーラム2日目分科会開催。

担当スタッフ 小黒敦子、今西モト子、大迫美奈子、小松昌世、斉藤美紀、鈴木牧穂、種村香絵、
長谷由香、三浦明美、三木美波、鈴木英衣

Ⅰ(1)分科会開催団体募集説明会の開催(全3回)

《日時・会場》

- ①7月13日(木)18:30～20:00 豊田産業文化センター 2階情報交換室
- ②7月14日(金)10:30～12:00 豊田産業文化センター 3階ラウンジ(グローバルスクエア)
- ③7月19日(水)19:00～20:30 ZOOM (配信場所:豊田産業文化センター 4階談話室D)

《参加団体数・参加者人数》

- ①17団体20名 ②12団体13名 ③20団体26名

《実施内容》分科会団体募集から当日までの流れ説明、質疑応答、グループに分かれ情報交換

Ⅰ(2)分科会開催団体交流会

《目的》分科会を開催する団体同士が取り組む現場の課題を共有することで、普段の活動だけでは出会えない子どもたちを知る機会になる。

《日時》2023年9月5日(火)18:30～20:30

《会場》豊田産業文化センター 2階情報交換室

《内容》参加団体の活動紹介・情報交換・実行委員会に参加している団体紹介

■活動を始めるに至った課題意識について、活動している中で出会う子どもたちのことなど。

■分科会の内容について皆で相談したいことがあれば。

《参加団体数》実行委員会11団体、分科会開催団体17団体



交流会の様子

Ⅰ(3)分科会担当から

■今回、分科会のプログラム数は37。過去最多の開催数となった。フォーラム当日だけではなく、後に繋がる機会になることを意識し、説明会・交流会を開催した。情報交換の時間はいつも足りなくなるくらいで、場の必要性を感じる機会になった。

想定以上にプログラム数が多くなったため、会場を予定していた豊田産業文化センターに加え、隣接する豊田商工会議所を増やし開催した。施設の管轄先が各フロアと施設ごとに違うため、連絡調整の煩雑さに苦労もあった。

フォーラム2日目、開催日当日は多くの方に参加いただいた。各フロアは子ども企画に参加する親子連れや、子どもたちのグループもひっきりなしに行き交い、それぞれの参加の仕方を楽しまれていたように思う。賑やかなフロア、落ち着いたフロア、赤ちゃん連れが多くほっこりしたフロアなど、各フロアの雰囲気が違うのも興味深かった。

プログラムの内容はどれも魅力的で、参加者からはとても選び切れない、いくつも参加したいという声が届いていた。一言に「子どもの権利」と言っても、様々な角度からのアプローチがあることを、各プログラムの報告を読んで知ってほしい。

分科会団体と何度も連絡を取ったり、当日ボランティアの方々含め、多くの方と活動できたことは本当に貴重な経験となりました。ありがとうございます。



当日の分科会受付の様子

ぶんかかい 分科会 (午前の部) 10:00~12:00 (分科会No.7は9:30~)

2
目
目

分科会 カテゴリ ■ いろいろな人が安心して暮らす社会 ■ 育つ権利(遊び・学び・居場所) ■ 子どもの権利条約・条例のこと ■ 場所 商 …… 豊田商工会議所 産 …… 豊田産業文化センター

No.	企画名	主催団体	場所
01	~多様な性を知ること、自分の心と体を科学的に学ぶこと~ あなたらしい生き方で、生きるために	Team.S@とよた × 包括的性教育研究会にじのわ	産 3階ラウンジ (グローバルスクエア)
02	ワークショップ 気候変動と子どもの参画 国連子どもの権利委員会による一般的見解 (General Comment) 26号の発表を受けて	江戸川子どもおんぶず& 足温ネットえどがわ	産 2階22会議室
03	ひといちばい 敏感な子の育て方 HSCの子育てハッピーアドバイス	一般社団法人HAT チーム愛知	産 4階交流室
04	遊びの力、こどもの力 こどもの心の声を聴くということ	NPO法人 愛知こどもホスピスプロジェクト	産 2階情報交換室
05	「世界の子どもの権利かるた」で楽しく学ぼう	認定NPO法人 国際子ども権利センター (シーライツ)	産 3階32会議室
06	あなたの夢は? 言いたいことは? お守りづくり	ガールスカウト愛知県第62団	産 4階ラウンジ (エレベーター前)
07	シンポジウム 子どもの声で学校をつくる~校則と子どもの権利~	愛知県弁護士会 (子どもの権利委員会)	産 1階小ホール
08	若者からみた 愛知の子ども・若者の課題と支援	人地研(じんちけん)	商 201会議室
09	こどもが主体的に選択する 多様な学びと行政との連携	愛知フリースクール等 ネットワーク	産 4階会議室C
10	アドラー心理学の勇気づけ育児で おとなが変わる、それが出発点	日本アドラー心理学会所属 学習グループ「ルマー・キタ」	商 202会議室
11	リトルシェフクッキング♪ 韓国風海苔巻き&オヤツ作り 自分でできた!あなたの美味しいが自分の幸せ!	食育 そいそい	産 2階調理実習室
12	子どもたちで未来の給食を考える こんな給食があったらイイな	(公財)豊田市学校給食協会	産 2階21会議室
13	「遊ぶ」は子どもの主食です プレーパークの活動を通して	NPO法人 てんぱくプレーパークの会	産 4階会議室B
14	緑児童館フリースペース 児童館における不登校の子どもの居場所づくり	名古屋市緑児童館 (こどもNPO)	産 4階会議室A
15	カードゲームで身近に感じよう! 子どもの権利	特定非営利活動法人 チャイルドラインあいち	産 3階34会議室
16	あなたはどう見る?市民団体が作った 「子どもの権利に関する条例(案)」	とよはし「子ども」スマイル会議	産 4階和室
17	今日いまこの時、なに思う?	豊田市子ども条例策定に 携わったひとびと	産 4階軽運動室1
18	こことよ15周年活動報告会 子どもたちとともに歩んだ日々を振り返って	こことよ (とよた子どもの権利相談室)	商 203会議室
19	わたらしさを大切にする 子どもの権利ワークショップ 体験	特定非営利活動法人ACE	産 3階33会議室

当日配布パンフレットより

ぶんかかい 分科会 (午後の部) 13:30~15:30

分科会 カテゴリ ■ いろいろな人が安心して暮らす社会 ■ 育つ権利(遊び・学び・居場所) ■ 子どもの権利条約・条例のこと ■ 場所 商 …… 豊田商工会議所 産 …… 豊田産業文化センター

No.	企画名	主催団体	場所
20	ゆうき野菜のおはなしと試食	ナチュラルスクール ランチアクション	産 2階調理実習室
21	CAP大人ワークショップ 子どもへの暴力防止プログラム	NPO法人 あいちCAPプラス	商 202会議室
22	ぼくの色・わたしの色ってどんな色? 自分らしさを認め合う「色」と「言葉」のワークショップ	(一社)日本子ども色彩協会	産 2階22会議室
23	多文化子育て♪ おやこで あそんで つながろう! 「うれしいってどんなとき?」絵本を作ろう	(一社)ぶんぼっぱ	産 3階ラウンジ (グローバルスクエア)
24	誰もが楽しめる運動会って? みんなで考えて体験しよう!	自立生活センター 十彩(といろ)	産 2階21会議室
25	里親さんと話そう 社会的養育の子どもたちの「権利」を守るために	(一社)愛知県里親会連合会	産 3階33会議室
26	子どもの権利と子どもの社会的 マルトリートメント予防を考える座談会	チームど真ん中+ 社会的マルトリートメント 予防全国集会実委	商 201会議室
27	学校(公教育)の現場で「子どもの権利」を保障するには? 「生徒指導提要 1.5.1(1)児童の権利に関する条約」 を読んで対話しよう	(一社)ひらけエデュケーション	産 3階34会議室
28	マジで100%子どもに権利がある 学校ってどんなの?	(一社)三河サドベリースクール・ シードーム	産 4階会議室C
29	校内居場所カフェ 学校の中に先生じゃない大人が入ってみたら	NPO法人子どもNPO	産 4階会議室A
30	フリースクールや子どもを主体とした 教育の始め方	大地の学校ロータス	産 4階会議室B
31	現場の姿を知り、それぞれができる一歩を考える 「思春期世代の権利」って?	ゆるっと♡ほけんしつ 夢カフェ	産 4階和室
32	Play STREAM(プレイ ストリーム)	学生ギルド	産 4階談話室D
33	オトナもコドモも、みんなで、asobi基地!!	asobi基地・愛知チーム	産 4階交流室後側
34	もっと知ろう!もっと広めよう!こども基本法 こども基本法と子どもの権利を子どもに 関わる活動の軸とするために	広げよう! 子どもの権利条約キャンペーン	産 3階32会議室
35	みんなで遊ぼう! 子どものけんりり なんでやねん!すごろく	子どもの権利条約 関西ネットワーク	産 4階交流室前側
36	【オンライン可】 広めよう!自治体による 「子どもにやさしいまちづくり」の実践	(公財)日本ユニセフ協会/豊田市	産 2階情報交換室
37	子どもの権利条約とこども基本法 国際的視点から	子どもの権利条約ネットワーク	商 203会議室

2
目
目

2
目
目

分
科
会
報
告

当日配布パンフレットより

分科会No.01

プログラム名 あなたらしい生き方で、生きるために

団体名 Team.S@とよた・包括的性教育研究会にじのわ(共同開催) **実施時間** 午前

実施場所 産 3階ラウンジ(グローバルスクエア) **参加者数** おとな37名 こども12名

担当スタッフ スタッフおとな10名 スタッフこども2名

パネリスト:小田柊菜、菅井清花、榊原英明、磯村正樹、櫻井亜貴 Team.S@とよた:金原良平
包括的性教育研究会にじのわ:スタッフ多数につき運営に関わった団体名のみ記載
なないろの翼、にじいろという、にじのかい、ふじなんりアン、ますとみのわ、魔法のリーフ、
もりもりあそび、わっかのたね

実施内容

《目的》「人権・LGBTs・包括的性教育」という一見とっつきにくそうなテーマを、身近な話題を通じて、「自分ごと」として捉え、日々の暮らしの中で考えるヒントを提供したいと考え企画しました。

《何をやったか》「自分らしさ・あなたらしさ」という主題を掲げ、①男らしさ・女らしさとは?②対等な関係ってなんだろう?大きく2つのテーマについて、中学生～大人まで年齢や立場の異なる5名のパネリストと共にディスカッションを実施しました。



印象に残った場面

2つ目のテーマで「対等な人間関係」を考えていく中で、「まずは『自分を大切にすること]が大切だ」という意見がでました。子どもパネリストたちの、「私は自分が一番大切」と言い切る姿や、「自分も相手も大切だが、そのどこを境界にしていくか難しさがある」という関係性を深く考える発言に、大人側が頷き学び取る姿が、印象的でした。



参加者の声

- 子ども達の意見が素晴らしかった/子どもの感性に学ばせてもらった
- 私はこう思う!と言いたくなった/自分ごととして考えながら参加できた
- 自分のことを大切にすることを、自分の子どもに伝えたいと改めて思った
- 様々な立場の方の意見が聞けてよかった/話が深まってよかった など



今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

良かったこと・・・折々で観客参加型にしたこと・安心して話せる場づくりができたこと

改善したいこと・・・2団体についてさらに「知りたい」とのご希望をいただいたので、繋がりをつくる仕掛け(サイトの紹介やチラシ配布等)があると良かった

分科会No.02

プログラム名	気候変動と子どもの参画 ～国連子どもの権利委員会による一般的見解 (General Comment) 26 号の発表を受けて～				
団体名	足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ、江戸川子どもおんぶず				
実施時間	午前	実施場所	産 2階22会議室	参加者数	おとな10名 こども3名
担当スタッフ	スタッフおとな6名 山崎求博、小畑あかね、齋藤智子、大河内秀人、青木沙織、斉藤洋子				

実施内容

《目的》子どもの権利が気候変動によって脅かされている現状がある中で、子どもの声を活かしアイデアを広げ、システムチェンジに繋げるための試みとしてワークショップを開催。自分に身近なキーワードと気候変動とのかかわりを考えることで、気候変動に対しコツコツ我慢の対策ではなく、社会の仕組み自体を変えていく力・必要性があることを認識してもらい、さらに子どもへの精神面の影響や参画についても参加者との対話を通じて考えていく。

《何をやったか》

■ 気候変動とは → ■ 一般的見解第26号における気候変動と子どもの権利

■ ワークショップ「マイプランづくり」 → ■ 情報共有、自己紹介と交流

印象に残った場面

■ ワークショップでたくさんのキーワードが出された

■ 交流タイムでの活発な意見交換、なごやかな雰囲気が終了後まで続いた

参加者の声

■ 知恵を出し合う井戸端会議的な意見交換がよかった

■ 子どもの権利と気候危機の関係性が整理され理解につながった

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

■ 気候変動と子どもの人権への関心が高まり考えるきっかけを残せた

■ 改善の余地はあるが、時間配分など臨機応変に対応できた

■ 参加者同士の交流もできてよかった

■ それぞれの活動に持ち帰れるようキーワードについて議論を深める時間をつくる

■ プログラムをアレンジして子どもたちとも実施したい



プログラム名 HSCの子育てハッピーアドバイス ～ひといちばい敏感な子の育て方～

団体名 一般社団法人HAT チーム愛知 **実施時間** 午前

実施場所 産 4階交流室 **参加者数** おとな45名 こども3名

担当スタッフ スタッフおとな8名

認定子育てHATマイスター：高平美鈴(講師)、菅原祐子

認定子育てハッピーアドバイザー：にしむらともえ、織田さゆり、稲垣真紀子、加藤尚美、谷川明子、早川陽香

実施内容

《目的》HSCの理解を通じて、一人一人が違いを認め合い、自己肯定感を育み合う社会への一助となるような情報の提供をする。

《何をやったか》子育てHATマイスターによる「HSC」の理解や対応などについての講演会と明橋大二先生への質疑応答。

印象に残った場面

■より具体的な質問が寄せられ、子育てや子ども支援等に携わる方々が、「HSC」という概念から、子育てのヒントや現状に対する解決策のようなものを求めることが増えているように感じました。

■「HSC」「自己肯定感を育むこと」などについて、興味や関心のある幅広い年齢の方々にご参加いただいた上に、どなたも熱心に聞いてくださいました。

■HSCへの基本的な理解と共に、発達障がいとの違いについても「講座や明橋先生への質疑応答であらためて理解できて安心した」「勉強になった」「来てよかった」などの声を頂き、開催した事を喜ばしく思いました。

■参加者が積極的に質問され、その答えにホッとて、笑顔になられたり、涙ぐまれたりしていたことが印象的でした。

参加者の声(終了後のアンケートより)

■「HSCの子への配慮=全ての子ども、人への配慮」を念頭に置いていきます。

■私自身はHSPで、子どもの頃に両親にこういう風に関わってほしかったなと思いました。

■HSCと自閉症スペクトラム症との違いがよくわかり、よかったです。

■誰もが自己肯定感を高く持って生きていけるよう、HSCを広める活動や学校やPTAなどで講演会などをしていただきたいです。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

■子どもの特性を知ることで、不安だったこと、わからなかったことが安心に繋がるきっかけになったら嬉しく思いますし、今後はHSCの各年齢(特に思春期)の課題についても、ご相談が受けられたらと感じました。

■子どもたちが日々成長していく中で、親も一緒に成長していく事が必要なこと、支援者として、子どもたちや親御さんの自己肯定感を支え、自分自身を受け入れることの大切さを伝えていく事、そして、一人一人の強みや成長の可能性を信じたりすることができるようにサポートする事が必要だと思いました。

■子育てにおいては親子共に安心して、お互いに信頼し合える良き理解者と関われる環境作りやコミュニティが必要であり、自己肯定感を育むことが、生きていく上で、本当に最初のとても大切な心の土台だと改めて感じました。子どもと関わる大人達にとって、「HSC」の概念や対応、「自己肯定感や甘えの大切さ」等を、まずは知ることが必要ですから、今後も連携を取り合い、草の根で広げていけるようお伝えしていきます。



分科会No.04

プログラム名 遊びの力、こどもの力 こどもの心の声を聴くということ

団体名 NPO法人愛知こどもホスピスプロジェクト 実施時間 午前

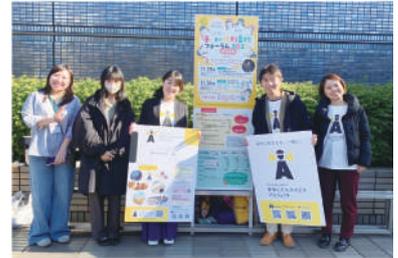
実施場所 産 2階情報交換室 参加者数 おとな34名

担当スタッフ スタッフおとな6名 スタッフこども1名
安東由紀、畑中めぐみ、安藤晃子、佐々木美和

実施内容

《目的》病気や障害のある子どもが置かれている状況、権利が脅かされる状況について共有し、そんな子ども達との関わり方、私たちにできること、大切にしたい思いを共に考える。

《何をやったか》講師(チャイルド・ライフ・スペシャリスト)による講義グループワーク(子どもを評価しない遊び方の実践、自分自身の経験や思いに向き合うこと)



印象に残った場面

子どもの時に病気で入院していた方、家族に受け止めてもらえなかったと感じておられる方など、ご自身の体験や思いを積極的に共有して頂きました。



参加者の声

病気や障害がある子どもだけでなく、全ての子ども、大人にも共通する内容でした。これまでの自分自身を振り返ることができ、明日からの実践にいかしたいと思いました。



今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

参加者の皆さんが、とても熱心に講義を聴き、また積極的にご自身の体験や思いを共有してくださいました。子どもの心の声を大切に聴こうと取り組んでいる全国の方々とつながることができ、大変心強く、また良い刺激を頂きました。これから、ますます愛知こどもホスピスプロジェクトの活動を積極的に大切に進めて行きたいと決意を新たにしています。ありがとうございました。

分科会No.05

プログラム名 「世界の子ども権利かるた」で楽しく学ぼう

団体名 認定NPO法人 国際子ども権利センター (C-Rights)

実施時間 午前

実施場所 産 3階32会議室 参加者数 おとな19名 こども11名

担当スタッフ スタッフおとな6名

甲斐田万智子、高橋美和子、宮崎捺生、石山芽依、大場彩香、漆原凧砂

実施内容

《目的》「子どもの権利ビンゴ」や「世界の子ども権利かるた」を通して、気づきや参加者同士での話し合いを通して、子どもの権利の学びを深める。

《何をやったか》「世界の子ども権利かるた」や「子どもの権利ビンゴ」を通じて子どもの権利について学び、「気になったかるた」や「子どもに伝えたいかるた」を参加者が選び、その理由を話し合うことで子どもの権利について学び、オリジナルかるたを作成することで子どもも意見表明できることを体験してもらったあとに、子どもの権利条約の解説をした。



印象に残った場面

あるグループで、気になったかるたとして「わ わがままって思わないで 子どもの権利って あたりまえのこと」のかるたが選ばれ、話し合いがなされた。そのグループはお母さん世代の方が多く、子どもの意見がわがままなのか、要望なのかどこで選別すればいいのかわからないという意見について議論していた。また13歳の子どもがオリジナルかるた「常識がいつまでも通用すると思うなよ」を読み上げるとおとなたちが感心していた。



参加者の声(終了後のアンケートより)

「いろいろな人がいて、おとなの言うことがぜったいではなく自分は自分、人は人、みんななかよく、いじめのない世界にするべきだと思います。」「小学生から大人まで楽しく参加し学べるワークショップで大変参考になった」



今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

分科会に参加して、幅広い世代の意見交流の場を通じて、お互いに学びあうことができたと感じた。また、子どもから大人まで参加していただいたワークショップに関わったことで相手の目線から物事を考える難しさと大切さを学んだ。今後も子どもの権利普及のための活動を続けたい(学生スタッフ)。

プログラム名 あなたの夢は？ 言いたいことは？ お守りづくり

団体名 ガールスカウト愛知県第62団 **実施時間** 午前

実施場所 産 4階ラウンジ(エレベーター前) **参加者数** おとな10名 こども32名

担当スタッフ スタッフおとな5名 スタッフこども6名
守随純子、深津佐豊美、中原摂、森田由佳、村田佳織

実施内容

《目的》子どもが夢や言いたいことを声に出す

《何をやったか》夢や言いたいことをマイボイスシートに記入・展示
それが叶うようにお守りをつくる。『叶結び』

印象に残った場面

■マイボイスシートを、書いている時のワクワクした雰囲気と、持ってきてくれた子どもたちのイキイキした目が印象に残りました。

■参加者にあなたの夢は？と尋ねたときに楽しそうに話してくれたことがありました。

■感想：子どもたちが楽しそうにクラフトをしている姿を見て参加して良かったと思った

■スカウトが教えているので、どちらもやりやすかったようで会話が弾んでいた

参加者の声

■夢がたくさんあるけどいくつでもいいの？という言葉。もちろん！とお返事しました。

■感情は人に伝えてもいいよ。という言葉に「そうなんだ。いいこと聞いた」と

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

■マイボイスシートをパッと書ける子、考えながら書く子、なかなか書けない子、いろんな子がいましたが、表現を受け止めてもらえる安心できる場所・大人が必要だと感じました。スカウト活動が自分を表現できる場になるようサポートしていきたいと思いました。

■この日はわくわくワールドと重なりガールスカウト三河北地区では参加できず62団のみとなりました。このフォーラムで子どもたちに何が伝えられるのかこれからが楽しみです。



分科会No.07

プログラム名 子どもの声で学校をつくる～校則と子どもの権利～

団体名 愛知県弁護士会 実施時間 午前

実施場所 産 1階小ホール 参加者数 おとな85名 こども5名

担当スタッフ スタッフおとな16名
愛知県弁護士会子どもの権利委員会校則プロジェクトチーム

実施内容

《目的》県立高校50校の校則の分析、校則ホットラインによる情報収集、校則開示の高校・生徒会・生徒へのアンケート・インタビューを経て、学校で子どもの権利がなぜ根付いていかないのか、学校におけるルールのあり方を学校側と生徒側のそれぞれの思いを踏まえ検討する。

《何をやったか》シンポジウム(喜多明人さんの基調講演、愛知県弁護士会子どもの権利委員会による活動報告、県立足助高校の校則見直し活動の報告、パネルディスカッション)



印象に残った場面

喜多さんの、子どもが意見を言いづらい中で、髪型や服装などについて意見があるのは子どもの「自己決定欲求」に基づくものであるというお話。足助高校校長先生のこれまでの生徒指導と子どもたちの現状を踏まえて教員の指導の在り方を変えていかないといけないというお話。



参加者の声

「校則調査・分析のクオリティの高さに圧倒されました。この部分をもっと掘り下げた形で、別の場所で発表してもらいたい。」「学校の校則を変えることが目的ではなく、子どものことを子ども自身が考え、意見を言える場を大人が作ることが大切だと理解しました。その為には、大人がもっと子どもの権利や人権について学ぶべきだと感じました。その機会を作るために、繋がりを増やして声を上げて行きたいと思います!」



今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

今回の参加者は大人が中心だったので、これを踏まえて子どもたちに対してメッセージを出し、学校において意見表明をしていけるようにエンパワーしていきたい。また、学校における校則見直し活動の前提として子どもの権利、人権の話をしていけるよう、学校や子どもたちと繋がっていききたい。



プログラム名 若者からみた愛知の子ども・若者の課題と支援

団体名 人地研(じんちけん) **実施時間** 午前

実施場所 商 2階201会議室 **参加者数** おとな20名

担当スタッフ スタッフおとな9名

船橋理仁、西山和寛、今泉翔太、高橋杏衣、大岡怜愛、蟹江哲太郎、近藤弘基、長岡甫、前田純樹

実施内容

《目的》子ども・若者向けの支援実践やまちづくりに携わる若者の立場から「愛知の子ども・若者が直面している地域的課題」を提起し、参加者との意見交換を通して子ども・若者が主体的に生活できる地域社会像を考える。

《何をやったか》

■ 学習・調査活動報告(子どもの教育をめぐる課題、子どもの「参加」と自治体の動き)

■ グループトーク

印象に残った場面

■ 産業に恵まれた地域であることと、個人の希望・進路実現との間にある「距離」の正体は何か?という、この地域ならではの子ども・若者を考える論点の提示があったこと。

■ 若者の課題に向き合う自分たちも「若者」である意識をもつことが重要と感じられたこと。

参加者の声

■ 愛知県独自の課題とその取組についての分析を興味深くうかがわせていただきました。

■ 子ども・若者がとり巻く状況について課題感をもって行動に移している同世代の人たちがいることが知れてとても良かったなと思いました。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

「若者であること」と「地域住民であること」という二重の当事者性をそれぞれどのように活かして、今後の活動を進めていくかという基本理念に関わる視点を今回得ることができました。また、多くの方に自分たちの活動の意義を認めていただいたり、今後もつながりたいとの声をいただくことができたりして、非常にやりがいと今後の継続の必要を感じました。



プログラム名 こどもが主体的に選択する多様な学びと行政との連携

団体名 愛知フリースクール等ネットワーク **実施時間** 午前

実施場所 産 4階会議室C **参加者数** おとな20名

担当スタッフ スタッフおとな5名
今井恭子、横地かよこ、辻佳秀、青野貴理子、今井真央

実施内容

《目的》当ネットワークを通じて愛知県で活動するフリースクール等を包括的に知ってもらえることを目的とした。

《何をやったか》既存の学校だけではなく、子どもが主体的に学ぶ場を選べる権利があることを幅広く伝えた。下記テーマのプレゼンテーションとディスカッションを行った。

- 他自治体の先行事例発表
- 当ネットワークができるまでの経緯
- これまでの実践発表
- 今後の展望と豊田市の動き

印象に残った場面

質疑応答で一般参加者だけでなく、末永けい県議や北海道から来た市議会議員など、政府関係者からも沢山ご質問を頂けたこと。

参加者の声

【不登校の保護者 ご夫婦で(みよし市)】小3から行けなくなり、いろんな情報を探している 教師に傷つけられたのが直接のきっかけ 市の教育支援センターは合わず、校長室に登校したりしている 他自治体などいろんな視点からの話が聞けてよかった 県内フリースクールの関係者さんの様子もわかってよかった

【とやまの子どもの権利条約ネットワークの方①】「じつは僕は自民党議員で・・・」と第一声(ワークの前の話のながれから、ね)(政治関連で話されていたことは)よくあるお話。子どもの権利条約に関わっていることも、'自民党員がやることじゃない'と言われてたりする。子どもの権利のことや教育のことは共産党の人とのほうが話が合う。やはり超党派をつくっていきたい 富山の田舎で、FSがまったくない 校内FSも全部の学校にあるわけでない そもそも公教育の学校自体も遠い(苦笑) そういう環境では「学校」の存在が絶対にならざるをえない

【とやまの子どもの権利条約ネットワークの方②】不登校経験者の高校生 今は全日制高校に行っている 上記の人と同じく、田舎でFS等が近くにならぬ場合、学校にいけなくなると地獄。オンライン等も含めて、学びのあり方として浸透してほしい 自分も不登校の時期は、オンラインで人と繋がり、ユーチューブで勉強していた

【中日新聞記者さん 小3の子どもが9月から学校に行かなくなってほやほや 名古屋市】まだFS等にはあたっておらず、とりあえず公的な施策で何かないのかと探したが何もなくて愕然としている。遅刻や早退も親の送迎前提だと、親が仕事できない 教育支援センターでの学びが14時に終わりで、送迎が前提ってどういうこと?名古屋市以外の自治体の現状も知りたい。

*FS…フリースクールの略

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

ZOOMでのオンライン講演を予定していたが、音声トラブルにより参加者にご迷惑をかけてしまった。今後はリハーサルを入念にしてトラブルを未然に防ぎたい。



分科会No.10

プログラム名 アドラー心理学の勇気づけ育児でおとなが変わる、それが出発点。

団体名 日本アドラー心理学会所属学習グループ ルマー・キタ **実施時間** 午前

実施場所 商 202会議室 **参加者数** おとな29名 こども3名

担当スタッフ スタッフおとな3名
澤田裕子

実施内容

《目的》アドラー心理学がなぜ育児と教育を重視するかの理由をまず理解してもらって、その上でアドラー心理学に基づく育児のありようをみなさんに紹介する。

《何をやったか》権利条約にうたわれている子どもの権利を行使する主体が子どもであるために、子どもたちに持ってほしい自尊心と他者尊重の気持ちを育む育児について、6つのグループに分かれてディスカッションをしながら進行了。我々がある意味無自覚な善意で子どもの権利をおろそかにしがちであることにも気づいてもらいながら、新たな対応とはどうすればいいかを考えていただきました。

アドラー心理学が推薦する育児プログラム『EOLECT(エオレクト)』を中心に、おとなと子どもが対等で平等な人間としての尊敬と信頼をもって勇気づけあう方法を紹介しました。



印象に残った場面

4歳と2歳の姉妹がお母さんにつき合って参加してくれていたのですが、小さなけんかになった時に、お互いのよい意図をそばに行って語りかけていると、けんかが少し緩やかになっていきました。

参加者の声

子どもの発達特性にとらわれていたけれど、その先入観のない目で子どもと向かい合いたいと思うようになった。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

子どもの権利を尊重していこうとする時に、おとなの心に起こってくる抵抗感のメカニズムを、心理学の立場から理解することができれば、かなり乗り越えて行けることを今回も実感した。続けていきたいと思う。

分科会No.11

プログラム名 リトルシェフクッキング♪韓国風海苔巻き&オヤツ作り
自分でできた!あなたの美味しいが自分の幸せ!

団体名 食育そいそい **実施時間** 午前

実施場所 産 2階調理実習室 **参加者数** おとな10名 こども10名

担当スタッフ スタッフおとな2名
スタッフこども1名 吉田貴子、加門侑扶

実施内容

《目的》子どもと一緒に自分の身体は何でできているかを考え、実践として、調理を一緒に行う。

《何をやったか》エプロンシアターを使いながら、身体はたんぱく質、ビタミンミネラルと栄養がチームで働くこと、お砂糖を毎日どれくらいの量までにしておいた方が良いかを一緒に学んでいきました。実践として、韓国風海苔巻きときなこ団子を作りました。



印象に残った場面

日頃食べているオヤツ等に使われているお砂糖の量が多い事に驚いていました。

自分で作った海苔巻きが美味しかったようで、追加でお代わりしながら作ってくれました。



参加者の声

自分の身体が良くなるためにも食事に気をつけたい。料理が楽しかった。またやりたい。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

一緒に食について学ぶ時間を持つことで、実践の料理がより意味あるものになりました。子どもの創造力、可能性豊かな姿に、こちらが学ぶことが多い時間となりました。



プログラム名 子どもたちで未来の給食を考える「こんな給食があったらイイな」

団体名 公益財団法人 豊田市学校給食協会 **実施時間** 午前

実施場所 産 2階21会議室 **参加者数** おとな11名 こども10名

担当スタッフ スタッフおとな6名
久野賢児、築瀬重樹、塩谷美香子、吉野奈美、若杉彩衣、駒野雅彦

実施内容

《目的》学校教育において知育・徳育・体育の基礎となる食育（給食）に関し、給食の歴史や調理過程を知ることによって子どもの成長に欠かせない給食の大切さ、食育について考えるきっかけとする。

《何をやったか》学校給食に関し、給食の大切さや食育を学んだ上で、子どもたちの自由な発想により、未来の給食の献立メニューを考えてもらった。



印象に残った場面

■ 古い食器やメニューサンプルに非常に高い関心が寄せられた（付添いや見学の大人も含め）。

■ 食材の丸ごと利用（魚丸ごと一匹料理）や〇〇づくし献立など、自由な発想の献立。



参加者の声

■ 豊田市の給食のことや豊富な食材を知ることができて良かった。

■ 子どもたちだけで意見を出し合って、献立を考えてまとめることが楽しかった。

■ 豊田市の給食で提供されている食材（コーヒー牛乳の素など）のお土産が嬉しかった。



今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

今回は、子どもを対象にしたプログラムとして展開したが、給食が持つ魅力は子どもから高齢者まで万人に共通するコンテンツではないかと思う。今回のプログラムを上手く活用するなかで多くの皆さんに給食の大切さや魅力を伝え、食育について学ぶ機会を今後も様々な場面において広げていけたらと考えている。



分科会No.13

プログラム名 「遊ぶ」は子どもの主食です ～プレーパークの活動を通して～

団体名 NPO法人てんばくプレーパークの会 実施時間 午前

実施場所 産 4階会議室B 参加者数 おとな13名 こども2名

担当スタッフ スタッフおとな2名 スタッフこども1名
鹿島真美、渡辺紫乃子

実施内容

《目的》まだ重要視されているとはいいがたい第31条をもっと広げ深めたい

《何をやったか》第31条の条文とゼネラルコメントをプレーパークの活動を通して読み解き、具体的な事例についてワークショップを行った。



印象に残った場面

ワークショップでいくつかのお題を用意したが、全グループがゲームに夢中のわが子にどのように働きかけをするかを選んだ。その中でゲームには遊びの三要素(時間・空間・仲間)が全て含まれており、否定するものではないという意見が出されたのが印象的だった。

参加者の声

「遊ぶ」は子どもの主食ですというタイトルにウン!と思った。自分の地域にもこういった場所をぜひ作りたい。子どものことをこんなに真剣に考えている方がたくさんいることが知れて、感動しました。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

31条を掘り下げ自分たちの活動を考える機会になり、子どもと大人がワークの中で意見を言い合える時間もまた貴重だった。～知ってるから〇〇へ～、この日が再スタートになった。

分科会No.14

プログラム名 児童館における不登校の子どもの居場所づくり

団体名 名古屋市緑児童館(こどもNPO) **実施時間** 午前

実施場所 産 4階会議室A **参加者数** おとな34名 こども5名

担当スタッフ スタッフおとな3名
塚本岳、天野智子、河村玲子

実施内容

《目的》公共施設である児童館として取り組んでいる、不登校の子どもたちへの日中の居場所の提供の事例を知ってもらい、関心のある方に参考にしてもらう。また集まった人たちでの情報共有の時間も作る。

《何をやったか》

- 緑児童館における「フリースペース」の活動紹介
- グループトーク「理想の居場所づくりに必要な物」あるいは「情報共有」



印象に残った場面

■ 不登校経験者や不登校児の保護者など当事者の参加が多く、自分(の子ども)が不登校だった時にこんな場所があったらよかったのにと
いう声があった。

■ 行政職員、議員、学校関係者の参加も多かった。必要な場だと考えている人が多いのは大変心強い。



参加者の声

■ 全体会と分科会に参加して「子どもの権利」って本当に大切だと思いました。子どもの考えをしっかりと聴いて、その考えを尊重してあげたいと思います。参加して良かったです。

■ 同じ価値観で奮闘される方がたくさんいて嬉しく思いました。

■ 発表者の方がとても楽しそうだったのが印象的でした。大人が楽しく働けるって素敵ですね。子どもからのエネルギーをもらっているからでしょうか。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

公共施設で実施する意義を伝えることができた。1館で受け入れるキャパシティーには限界があり、他の児童館や他の自治体にもぜひ広がってほしい。

分科会No.15

プログラム名 カードゲームで身近に感じよう! 子どもの権利

団体名 NPO法人 チャイルドラインあいち 実施時間 午前

実施場所 産 3階34会議室 参加者数 おとな9名 こども4名

担当スタッフ スタッフおとな7名
水谷兼仁、渡辺勉、岩田有加、茶谷裕子、桑山くみ子、下田一幸、寺西智恵

実施内容

《目的》自分の感覚を大事にしながらカードゲームを通して「子どもの権利」を考えてもらう

《何をやったか》チャイルドラインあいちオリジナル「子どもの権利条約カードゲーム」の実施。その後、ふり返り、レクチャー



印象に残った場面

自分たちが選んだ権利条約カードにその日その場で出会ったメンバーとともに向き合う時間。それを通して自分の感覚で子どもの権利をみんなが考えている姿。

参加者の声

カードの言葉一つ一つを通して考えさせてもらいました。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

特になし

分科会No.16

プログラム名 あなたはどう見る?市民団体が作った「子どもの権利に関する条例(案)」

団体名 とよはし「子ども」スマイル会議 **実施時間** 午前

実施場所 産 4階和室 **参加者数** おとな13名

担当スタッフ スタッフおとな5名
江坂雅世、宇都宮啓子、長田真理子、牧野規予、渡辺則子

実施内容

《目的》豊橋市で「子どもの権利条例」を作りたいと10年活動してきました。私たちが勉強しながら作った第5案を参加者に読んでもらい、自由に意見を言ってもらおう。

《何をやったか》関心のある章について3グループに分かれて、条例案について自由に話してもらい、全体共有した。体操で体をほぐし、違うグループで違う章について話した。



印象に残った場面

参加者が持っている経験や知識を活かして、スマイル会議の条例案について、具体的に意見を出してくれていた。



参加者の声

条例はできた後、みんなが知っているか、どう使うかが大事。子どもの権利だけでなく、「人」みんなの権利が保障されることが大事。学校で先生が「子どもの権利」を知らない。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

子どもの声を聴く!を大事にしてきたつもりが、本当の意味での子ども参加の視点が弱いと感じた。子どもの「ために」から子どもと「ともに」への転換をいつも意識して、今後も活動していきたい。



分科会No.17

プログラム名 今日いまこの時、なに思う？

団体名 豊田市子ども条例策定に携わったひとびと 実施時間 午前

実施場所 産 4階軽運動室1 参加者数 おとな7名

担当スタッフ スタッフおとな1名
鈴木美苗

実施内容

《目的》豊田市子ども条例を策定した時のことを知っている人が、今回の子どもの権利条約フォーラムの全体会を受けて、分科会の場で参加者が自由に意見表明できる機会を作りたかった。条例を作った時に大事にしていたことなど聞きたいことを関係者に聞く機会を持ち、ただの飾りではなく実質的に知られ実感していくためにはどのようなことが必要なのかを考え検証できればと考えた。

《何をやったか》座談会形式のお話会。

印象に残った場面

条例策定に関わった職員さんがお越しくださり、当時の施策についてや条例策定の背景についてお話くださった。他市の方が今後条例を作るにあたり、市民の意見をどこまで取り入れるのか、質問されその時間的なことについて考えておられていたのが印象的。

参加者の声

これから条例を作る方、市議員の方、作られた方、市民、いろいろな立場の方と深く話が出来たのが良かった。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

立場の違う方の参加により、その考え方の違いを知りつつ、お互いの立場を理解しあいながら、時にしっかり意見を出し合いお互いを理解していく機会の必要性を改めて感じました。

いいねだけではない、踏み込んだ対話を重ねるためには、それぞれの方が自分の意見をきちんと持っていることが大事で、ここに参加された方はそれをクリアされていた気がします。若者や子どもが、対話できるような構想にすれば面白かったかなとやってみてから思いました。



プログラム名 こことよ15周年活動報告会 子どもたちとともに歩んだ日々を振り返って

団体名 こことよ(とよた子どもの権利相談室) **実施時間** 午前

実施場所 商 203会議室 **参加者数** おとな31名

担当スタッフ スタッフおとな10名 スタッフこども1名
山谷奈津子、木村浩美

実施内容

《目的》

■ 子どもからの様々な相談を受けるとともに、子どもの権利を守る活動をしてきた15年を振り返り、あらためてその役割と活動を再確認し、子どもの権利がちゃんと守られているかなどを一緒に考える。

《何をやったか》

■ 基調講演「豊田市子どもの権利相談室『こことよ』15年のあゆみと子どもの権利」

■ 特別報告「条例制定の経緯について」

■ パネルディスカッション

印象に残った場面

■ 条例制定当時の経緯や、当時の子ども委員と現在の子ども委員双方からの話が聞けたこと。

参加者の声

■ 活動を振り返って次に繋げることは大切だと思った。

■ 条例制定の経緯は権利条約の理念を体現するものだったと思った。子ども委員と共にこことよが歩んできたことがよくわかった。

■ 子どもの権利を大切に丁寧に考えられていることが、とても心強かった。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

■ 広報を始める時期が遅かったことは大きな反省点。もう少し範囲も工夫できるとよかった。

■ 内容が濃く、2時間の中で収めることが難しかった。逆にもったいなかったとも感じる。

■ 質疑応答の時間が取れなかったことは、参加してくださった方にとっては残念だったかも。



プログラム名 わたしらしさを大切にする子どもの権利ワークショップ体験

団体名 特定非営利活動法人ACE **実施時間** 午前

実施場所 産 3階33会議室 **参加者数** おとな15名 こども4名

担当スタッフ スタッフおとな3名
杉山綾香、田柳優子、成田由香子 (ACE)

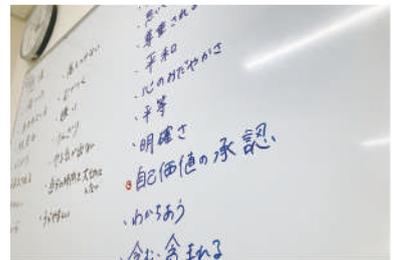
実施内容

《目的》

1. 「子どもの権利」とはなにかを知り、子どもの権利が守られるよう子どもをエンパワーできるようになる(自分自身に子どもの権利があることを知り、エンパワーされる)
2. 自分も相手も大切にする共感的な対話の方法を知り、子どもの声を聴きながら対話することができるようになる

《何をやったか》日々の生活で感じるイライラやモヤっとしたことを題材に、NVC (Nonviolent Communication = 共感的コミュニケーション)の手法を使って「大切にしたい願い=ニーズ」を参加者1人1人に見つけてもらい、そのニーズと子どもの権利の関連性を知るワークショップを実施しました。

グループワークで子どものモヤっとした事例エピソードからどの権利条約の内容が関連しているかを探してもらったりワークや、自分も相手の権利も尊重しながらどんなアクションが取れるかのデモンストレーションを見せて考えてもらいました。



印象に残った場面

導入パートの「感じてみようわたしの気持ちと願い」のなかで、参加者1名のエピソードを参加者全員に向けて話してもらい、その方の「感情」と「大切にしたい願い」を全員で探究する時間をつくりました。話してくれた後、次々と感情と願いを挙げてくださり、限られた時間のなかで参加者1人1人の「聴く力」「共感する力」がついたことを実感しました。



参加者の声

- 大事だと思う権利も人それぞれで自分らしさ、それは自分の中の軸になっているというメッセージが素敵でした
- 子どもの権利条約の条文を実際の出来事に照らし合わせて考えることができました

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

本ワークショップは小学高学年から高校生を対象に作成した内容だったのですが、おとなの参加者にも大変好評なフィードバックをいただくことができました。今後はおとな向けにも対象を広げて実施していきたいと思います。

プログラム名 ゆうき野菜のおはなしと試食

団体名 NPO法人ナチュラルスクールランチアクション

実施時間 午後

実施場所 産 2階調理実習室 参加者数 おとな7名 こども6名

担当スタッフ スタッフおとな6名 スタッフこども6名
黒木あずさ、藤田公仁子、副島美貴、足立まどか

実施内容

《目的》子どもの権利条約の「生きる権利」「育つ権利」にあたる給食には、子どもの意見が反映されていないのでは？や、自分が地球の一部であり、自分の行動が地球環境に関係しているのではないかと考えた。給食という一食に環境課題や自分達が住むまちづくりにも関係していることを知ってもらい、それを踏まえてどんな給食にしていきたいのか、食べたいのかを大人も一緒に学び、感じてほしいという目的で行った。

《何をやったか》給食の歴史紹介、有機野菜とは何か、オーガニックとは！を知ってもらうエシカル食育授業『やさいのおはなし』、自然栽培・有機栽培・慣行栽培、で育ったにんじん、だいこんの試食をしてもらい、味の違いなどを体験してもらいました。



印象に残った場面

試食をしている時に、参加者の皆さんから「にんじんの味が違うー！」という声がたくさん上がっていたことと、子ども達ににんじんがとても人気でみんなで美味しそうに食べている姿が印象に残りました。

参加者の声

栽培方法によって味がこんなにも変わるのか！という驚きの声や、有機野菜について知らないことばかりだったが、食べるものと地球の繋がりがあることを考えることができたということを知りました。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

私たちは【子どもの未来のために】と活動していますが、子どもの権利条約について勉強不足だとひしひしと感じました。団体全体で改めてこの条約について学ぶ必要があります。そして本当の意味で子どもの未来のために活動する団体になっていきたいです。

分科会No.21

プログラム名 子どもへの暴力防止プログラム

団体名 NPO法人あいちCAPプラス 実施時間 午後

実施場所 商 202会議室 参加者数 おとな10名 こども1名(高校生)

担当スタッフ スタッフおとな2名
斉藤美紀、安江節子

実施内容

《目的》CAPプログラムの実践報告、子どもの権利や暴力防止について考察する機会とする

《何をやったか》CAP大人ワークショップ(参加者の相互紹介、豊田市でのCAP実施の経緯、子どもたちがどんな人になってほしいか話し合い、子どもの権利とは、子ども基本法、行政や教育機関とCAPの連携について、暴力とは、CAPの暴力防止の考え方、子どもワークの体験、子どもワークの解説、暴力の発見、話の聴き方、子どもに選択肢を与える、通告)

印象に残った場面

参加者のみなさん全員がそれぞれの立場で、子どもへの人権侵害予防について積極的に意見交換がなされた。

参加者の声

参考になったところ…子どもへの権利の説明の仕方、暴力被害を訴えてきた時の対応の仕方、しつけと体罰の違い、声を上げることができない子どもへの対応の仕方など

感想…自分の住んでいる自治体でCAPのワークショップを広めたいと思った。今ある知識よりさらに深めることができました。みんなに権利があること「安心・自信・自由」この3つはとても大切な言葉だと感じました。「NO」も「GO」も大切ですが「TELL」は相談される側もしっかり学ぶ必要があると知りました。暴力をしてしまいそうな子どもたち、大人に早く気づき一つでも世の中の嫌な出来事が減るよう、今後も話を聞きワーカーとして今まで以上に自覚を持って行動していきます。15年前にCAPを知り、今回やっと話を聞けてうれしかった。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

参加者の意見を一人ひとり聞くことができ意見交換の時間もたっぷりとれ、終了後の参加者のみなさんの笑顔も素晴らしく、少人数で実施するよさを実感しました。日頃は公募でワークショップを行うことがなく、様々な立場の方の意見をうかがえたことは貴重でした。



分科会No.22

プログラム名 ぼくの色・わたしの色ってどんな色?自分らしさを認め合う『色』と『言葉』のワークショップ

団体名 一般社団法人日本子ども色彩協会 **実施時間** 午後

実施場所 産 2階22会議室 **参加者数** おとな27名 子ども6名

担当スタッフ スタッフおとな8名

大坪香、中島澄代、池田由紀、齊藤美雪、潮田志穂、青木由美子、與田奈津代、宮川華子

実施内容

《目的》正解も不正解もない『色』を使って“みんな違ってみんな良い”と体感し、“ありのままの自分を認め合える環境の心地よさ・大切さ”を子どもの権利として考えて頂く。

《何をやったか》色水で『じぶん色』を創り出すワーク

印象に残った場面

色を使って、自分の感性を視覚化・言語化していく中で、大人が子どものように無邪気に笑い合っていた様子が印象的でした。小学生の子が「ここで個性を知れてよかった。自分にもっと自信を持ちたいと思いました」と全体に向けて最後にシェアして下さった場面。

参加者の声

子どもを認めるにはまず大人が自分を認めること、これほんと大事だと思う。自分のこと、見つめて好きでいられる大人になろう・大人でいようと思いました。すごく楽しかったです。正解も間違いもないということ。みんな素敵で私のも素敵だと感じられたことと、違いがあっても、お互いがそれもいいねって認められると違ってもつながれるんだなあと思ったのがすごく良かったです。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

『子どもの権利』という言葉の立派さから、何となく自分からは遠くにあるものだと感じてしまうこともあるのですが、実際には日々の暮らしの中にこそあり、子どもだけでなく、大人の生きやすさにも直結する大切なもの。この分科会の企画を練り、開催する中で改めてそう感じる事ができました。



プログラム名 「うれしいってどんなとき？」絵本を作ろう

団体名 一般社団法人ぶんぱっば 実施時間 午後

実施場所 産 3階ラウンジ(グローバルスクエア) 参加者数 おとな26名 こども36名

担当スタッフ スタッフおとな6名

茂木明子、足立詠子、松井理咲子、尾山亜衣、秋山聖子、高木遙佳

実施内容

《目的》言語や年齢に関わらず、自分が伝えたい事を伝え、それが受け止められる体験の場を作る。人それぞれの“うれしい”があることを楽しみながら感じ、参加した親子が自分のことも他の人のことも大切にするきっかけを作る。

《何をやったか》親子で楽しめる絵本の読み聞かせと、“うれしいってどんなとき？”をテーマに絵を描き、飾り、参加者間で交流。描いた絵をまとめ、後日オンライン絵本にする。



印象に残った場面

絵本の読み聞かせに「してる！」と嬉しそうに大きな声で参加する子ども達。絵の具やクレヨンと思いつきの画材でそれぞれの“うれしい”を描き、はにかみながら絵について教えてくれ、「もっとかく！」と何枚も描く子ども達。一緒に描いたり、見守る大人達。表現する喜びの連鎖でそれぞれの“うれしい”の絵が次々と並び、周りに笑顔が溢れていた。



参加者の声

■子ども：「たのしかった!」「絵の具がつかえてよかった!」「またやりたい!」

■大人：「子ども達が夢中になっていっぱい描いていてよかった」「子どもの“うれしい”時をしれて意外な発見があった」「子どもが初めて絵を描いた!」「時間が決まっていると子どもの状況によって参加が難しいので、今回のように自由に入出りができると参加しやすい」「ぶんぱっばの活動に関心があるので手伝いたい」「会いたい人や新しい人と会えてうれしかった」



今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

■子ども達が紙を並べたり、受付後の案内をしたり、片付けを手伝ってくれたり、自発的に楽しみながら運営を手伝ってくれ、生き生きととてもいい表情をしていた。

■絵本読み聞かせの読み手を子どもと大人セットでやったのがとてもよかった。

■自由に絵本を読める絵本コーナー(場所)を作ると少し飽きた子どもにとってうれしいはず。



プログラム名 誰もが楽しめる運動会って?みんなで考えて体験しよう!

団体名 自立生活センター十彩(といろ) **実施時間** 午後

実施場所 産 2階21会議室 **参加者数** おとな8名 こども6名

担当スタッフ スタッフおとな4名
中野まこ、大當千晴、黒柳雅也、末永涼子

実施内容

《目的》障害の有無関係ないインクルーシブ社会や合理的配慮とは何か?を知ってもらうために、「運動会の競技」を通じて一緒に考え体験し、共有することを目的とし行いました。

《何をやったか》参加者スタッフの自己紹介、声を出さない会話の方法もあるということを知ってもらうためのアイスブレイク、自立生活センター十彩の紹介、障害の理解、誰でも参加できる運動会の種目と方法をみんなで考える、玉入れ体験、質疑応答、まとめの挨拶

印象に残った場面

誰でも参加できる玉入れの方法をみんなで考えたとき、「みんな車いすや床に座って玉を投げる!」「玉投げの距離を決めておく!」、など参加者のみなさんからたくさんの提案が出たことが印象に残りました。

参加者の声

「誰でも参加できる玉入れの方法や実際に体験ができて良かった。」
「すごく楽しかった!」などの声をいただきました。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

今回は運動会の競技でしたが、色々なことを「誰もが」できる方法をみんなで一緒に考えていくことを行っていきたいです。参加者のみなさんとスタッフがごちゃまぜになり、誰もが楽しめる玉入れの方法を考えたりできて楽しかったです。



分科会No.25

プログラム名 社会的養育の子どもたちの「権利」を守るために

団体名 (一社)愛知県里親会連合会 **実施時間** 午後

実施場所 産 3階33会議室 **参加者数** おとな11名 こども1名

担当スタッフ スタッフおとな9名
愛知県里親会連合会代表参与(豊田加茂里親会会長)野田幸枝

実施内容

《目的》里親制度の啓発及び、養護施設や児童相談所の最近の子ども
の権利についての取り組みを学ぶ

《何をやったか》里親の体験発表・養護施設と児相の取り組みのお話・
グループディスカッション

印象に残った場面

札幌や愛媛からも参加いただき、その方々の地域性や子どもたちを取り
巻く環境に戸惑いながらも、一生懸命に子どもに向き合って頑張っ
ている姿に触れる事ができた。

参加者の声

■ 社会的擁護の子ども現状(施設入所や里親委託)と取り組みを知
ることができた。

■ 梅ヶ丘学園でやっていること(安全委員会等)が何故多くに普及し
ないのか?

■ 自分たちのやっていることをグループディスカッションでみんなに
「良いよ、それで良いよね」と言ってもらい安心した。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

子どもに関わっている方たちの参加が多かったが、里親のことをあまり
知らない方も多し。これからも里親や制度について話せる機会を作り啓発していき、里親委託の子どもが
増えることを期待する。

中学生が参加してくれたことがうれしかった。



分科会No.26

プログラム名 子どもの権利と子どもの社会的マルトリートメント予防を考える座談会

団体名 社会的マルトリートメント予防全国集会実行委員会+チームど真ん中

実施時間 午後 **実施場所** 商 201会議室 **参加者数** おとな28名

担当スタッフ スタッフおとな10名
林友梨恵、加藤康平、丸山政子、樋口史子、稲垣道生、遠藤昌代、中井恵美、櫻井雅美、
空閑省子、明間汐里

実施内容

《目的》社会的マルトリートメント予防について、知ってもらい、考えてもらう。

《何をやったか》武田信子さんの「いま、子どもへの社会的マルトリートメントを考える」の動画(90分)を全体で視聴し、小グループに分かれての対話を行った。

印象に残った場面

社会的マルトリートメントについて初めて知った人も多かったと思うが、頷きながら動画を見ている人が多かった。また、短い時間ではあったが、小グループに分かれての対話はとても盛り上がり、まだまだ話し足りない様子の人も多く見られた。

参加者の声

知らないことを知る大切さを教えてもらった。知ったからには、子ども達の声を聞き、寄り添っていけるようにしたいと思う。

日常の中にマルトリートメントにつながる場面は多く潜んでいて、自分も我が子に無自覚にもしてしまっていたのだなと気付いた。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

動画が長かったという意見があったため、動画を短く分けるなど工夫が必要だと感じた。分科会を開催することで、たくさんの人に社会的マルトリートメントについて知ってもらうことができた。また、今後わたしたちの活動に参加したいという人ともたくさん繋がり、とても良かった。



分科会No.27

プログラム名 学校(公教育)の現場で「子どもの権利」を保障するには？
～「生徒指導提要 1.5.1 (1) 児童の権利に関する条約」を読んで対話しよう～

団体名 一般社団法人ひらけエデュケーション **実施時間** 午後

実施場所 産 3階34会議室 **参加者数** おとな17名

担当スタッフ スタッフおとな1名
若杉逸平(代表理事)

実施内容

《目的》“生徒指導のガイドブック”とされる文部科学省発行の「生徒指導提要」に、令和4年12月の改訂で「児童の権利に関する条約」が記載されましたが、実際のところ、学校(公教育)の現場で「子どもの権利」は保障されているのでしょうか。もしも保障されていないのなら、どうしたら保障できるのでしょうか。学校(公教育)の現場で「子どもの権利」を保障するために、私たちは今後、どのように行動することができるのかについて対話を通して考える。

《何をやったか》以下のテーマについて16名の参加者は4名で1グループとなり対話した。

■「生徒指導提要 1.5.1(1)児童の権利に関する条約」読んで、考えたり思ったこと。

■学校(公教育)で「子どもの権利」は保障されているのだろうか？

■どうしたら「子どもの権利」を保障できるのだろうか？私、私たちに何ができるのだろうか。

■「大人の権利」は保障されているのだろうか？

印象に残った場面

分科会の時間の多くは、参加者同士の対話の時間となりました。幾つかのテーマについて対話することを繰り返すことで、参加者同士の関係が深まっていきました。また、「子どもの権利」とあわせて、「大人の権利」を考える時間を持ったことで、私たち大人自身の権利を保障する意識を通して、「子どもの権利」を保障することを考えることになっていました。

参加者の声

スライドにあった、“私たち「大人の権利」は、保障されているのだろうか？”という言葉を見聞きしたことが、グッと心に刺さりました、とおっしゃっていただきました。

子どもは大切です。そして、大人も大切なのですよね、と。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

分科会の参加人数を対話しやすいと考えた16名(4名で4グループ)に限定させていただきました。私が一人でファシリテーターをして、丁寧に参加者と関わることができる限界と考えたからです。そのこともあってか、参加された方々が安心した空気感の中で、権利について深い対話をされていました。今後も参加された方々が、このような安心して居ることができる対話の場を多様な人と一緒に作っていきたく強く感じました。



プログラム名 マジで100%子どもに権利がある学校ってどんなの？

団体名 一般社団法人三河サドベリースクール・シードーム **実施時間** 午後

実施場所 産 4階会議室C **参加者数** おとな19名 こども1名

担当スタッフ スタッフおとな7名 スタッフこども8名
辻佳秀

実施内容

《目的》子どもたちがスクールに対して100%の決定の権利を持つという、まだ世の中で珍しいシードームの在り方を紹介することで、参加者に子どもの権利に関して新たな観点から捉えてもらい、権利について考えを深めてもらうことを目的とした。

《何をやったか》シードームの理念や大事にしているところの説明をし、生徒、スタッフ、卒業生が参加者からの質疑に答えた。その後、生徒、スタッフ、卒業生、保護者がバラバラに参加者の輪に入って、グループトークをし、さらにじっくりシードームのことに触れられる時間をつくった。



印象に残った場面

グループ分けの際に生徒がどう分かれるかがすぐに決まらず、ジャンケンまでして決めていた。そのことについてあるグループで、教員だという方が「自分が教員としてあの場面にいたら、時間も気になるので、指示してグループを決めてしまっていたと思う」と発言されていた。そういう細かいところでも自分で決めていくところから権利は「ある」ということが参加者に伝わったのではないかと感じた。



参加者の声

「シードームの生徒が本当にそのままの自分、等身大の自分を出して話しているのが伝わってきて、その内容も自信に満ちていて感動した。」

「生徒とスタッフの掛け合いを見ることができて、実際に普段からこんな対等な関係性でやっているのだなということが垣間見れたのが良かった。」

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

思っていたよりもたくさんかつ多様な方々が参加してくれたことで、子どもと大人が対等に場をつくっていくシードームの活動を社会に広めていこうという気持ちがより強くなりました。自分たちでも積極的に今回の分科会のような企画を打ち出していけたらと思います。実行委員会のみなさまには、よい機会をくださり本当に感謝しています。ありがとうございました。

分科会No.29

プログラム名 校内居場所カフェ 学校の中に先生じゃない大人が入って見たら

団体名 特定非営利活動法人子どもNPO **実施時間** 午後 **実施場所** 産 4階会議室A

参加者数 おとな25名 大学生、大学院生、ユース9名 子ども(中高生)8名

担当スタッフ スタッフおとな5名
山田恭平、本田高之、木下湧斗、八木菜摘、河村玲子

実施内容

《目的》

- 愛知県名古屋市における学校内居場所カフェの現状を報告すること
- 子どもの参加・参画・意見形成・意見表明・遊ぶ・休む権利等の啓発

《何をやったか》

- 活動報告
- 校内居場所カフェの疑似再現
- コミュニケーションワーク(対話のテーマカードを参加者が作成し、対話を促すもの)

印象に残った場面

- 校内居場所カフェの疑似再現を行い、ゆるやかな雰囲気の中で立場を超えて実施ができた
- 立場を超えて参加者同士が対話をした。校内カフェでの大切な要素を疑似体験できた

参加者の声

- 名古屋における校内居場所カフェの状況が分かった
- 子どもの意見表明としての校内居場所カフェという捉え方がよいと感じた

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

愛知県名古屋市における校内居場所カフェを発信する機会を少しずつ持ち始めていたが、反響がしっかりとあることがわかった。今後実施の認知と考え方の周知を広めていくことで、広く子どもたちが活用していくことができる事業へと発展・昇華していくと感じた。発信をしていく上で自信を持つことができる分科会となった。



分科会No.30

プログラム名 フリースクールや子どもを主体とした教育の始め方

団体名 大地の学校ロータス **実施時間** 午後

実施場所 産 4階会議室B **参加者数** おとな9名

担当スタッフ スタッフおとな1名
今井真央

実施内容

《目的》大人都合の一方的な教育ではなく、4つの子どもの権利を尊重した「子ども主体」の学びの重要性を広く伝えることを目的とした。

《何をやったか》そのために既存の教育関係者をはじめ、新しくフリースクールや子どもを主体とした学びを取り入れたい教育実践者に向けて講演やグループディスカッションをした。



印象に残った場面

初めて集まった者同士でグループディスカッションをしたが、全員が主体的になって自分の意見を伝え合っていたこと。

参加者の声

なぜ自分たちが子ども主体の居場所作りをやるのか？という視点でグループディスカッションをしたところ、参加者の方から「教えてもらうつもりで参加したが、自分で考えて主体的に教育を考える必要があることを学んだ」と感想を頂いたこと。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

講演会形式だけでなく、初のディスカッション形式の挑戦であったがグループ分けや席移動など、参加者の協力もあってスムーズに進行することができた。少人数であっても濃いディスカッションができたのが良かった。

プログラム名 思春期の子どもの権利って?～思春期の現場の姿を知り、それぞれができる一步を考える～

団体名 ゆるっと♡ほけんしつ 夢カフェ **実施時間** 午後

実施場所 産 4階和室 **参加者数** おとな27名

担当スタッフ スタッフおとな6名
今西モト子、藤井真紀、曾我部智子、村田有香、松村由香、鋤柄今日子

実施内容

《目的》人間関係やカラダの悩みが多くなり、性のトラブルへ発展しやすいなどの問題を抱えやすく、制度のはざまにいる思春期世代。様々な視点から思春期世代の姿を知り、子どもの権利について考えてみる。

《何をやったか》

【思春期世代が抱える困難とは】グループワーク

自分で自分がわからず不安定。勉強・部活に忙しく休めない。情報があふれて取捨選択が難しい。ネット世界で生きており周囲から様子が見えにくい。親に話せないけど自分で決められない。相談先がない。

【人生を選ぶということ】通信制高校教頭 西川雄介先生

「学生時代の思い出は?」という質問に対して「授業」と答える学生はほぼいない。通信制高校ではリアル授業が年に4日間なので思い出に残る授業を心がけている。人生の選択を迫られる年代が低くなる傾向だが、多種多様な人・場面に出会い選択肢を多く持ってほしい。

【当団体の成り立ち】当団体代表 今西モト子

子ども食堂運営8年。子どもの支援を通して気づいた問題点は「思春期世代は人間関係やカラダの悩みが多くなり、性のトラブルへ発展しやすい」ということ。産婦人科医師とともに生理の教室を開催したことをきっかけに当団体の立ち上げに至る。

【当団体の活動内容、性と生殖の健康と権利】当団体副代表・産婦人科医師 藤井真紀
スウェーデン発祥のユースクリニックを参考に、思春期世代の様々な悩みに寄り添っている。性と生殖に関するありがちな悩みを紹介。性教育の遅れ、相談できる大人が少ない、病院の敷居が高い、避妊へのアクセスが悪いなどの課題がある日本。気軽に相談できる場所を知ってもらい、悩む子どもが減ってほしい。

【思春期世代の子どもの権利を守るためにできること】全体ディスカッション

■子どもの権利委員会・一般の意見20号の一部「思春期は人生においてかけがえのない段階であり、焦点をあてられるべき存在である。思春期における前向きかつ支援的な機会は、乳幼児期にこうむった危害の影響の一部を相殺し、将来の被害を緩和するためのレジリエンスを構築する目的で活用できる」ことを共有した。

■制度のはざまにいる義務教育後の子どもとつながるため、このような居場所が常設できるといい。

■家から出られない子どもへの対応は?→「個別訪問を続け、心を開いてもらう」「将来的にはメタバースで相談する」という案も。多種多様な相談先を共有した。

■学校内での活動が広がると、多くの子どもに情報が届けられる。

■相談してもらえる存在であるために、否定せず寄り添う姿勢を大事にしたい。

■「思春期」というラベルを貼ってしまわずに、それぞれ個別の悩みとして捉えたい。

印象に残った場面

グループワークやディスカッションで積極的に発言する参加者の様子。お茶を飲みながら、和やかに交流する参加者の様子。

参加者の声

大変有意義な時間となった。夢カフェの活動について深く知ることができ、自分も頑張ろうと思った。思春期の時期の見守りの大切さを痛感した。子どもだけでなく、大人である自分が悩んだときに相談させてほしい。周りの大人の理解、やさしさ、おせっかいが大切だと思った。「ほんのちょっとした関わり」を私も大切にしたい。話を聞くという姿勢が何より大切だと分かった。子どもの周りに優しい人が沢山いるのだと気付いた。「待っていても子どもは来ない」やはりそうかと参考になった。「思春期」とひとくくりせず、その子の想いを聞くことが大切なことだと思った。地道な活動の必要性を感じ、行政にできることは足りているのかを考えさせられた。もっと大事にされるべき話題だと思った。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

様々な経験をもつ参加者の声を聞くことができ、学びが多かった。思春期世代をサポートする多職種の方々がつながりあう機会となった。今後も思春期世代の声を聞き、見守り寄り添う活動を続けていきたい。



プログラム名 Play STREAM (プレイストリーム)

団体名 学生ギルド 実施時間 午後

実施場所 産 4階談話室D 参加者数 おとなだいたい20名 こどもだいたい30名

担当スタッフ スタッフおとな2名 スタッフこども2名
鈴木美苗、上條遥都

実施内容

《目的》自分の作りたいものをプログラミングで作る学生の姿を見せ、プログラミングで何ができるのかを感じ、興味をもつことにつなげる。来場者が関わって一つの作品になるようなものにした。

《何をやったか》プロジェクションマッピング。星空に星座を自分で描けるようにした。

印象に残った場面

最初に楽しんだ子どもたちが、次に来る子どもたちにやり方を教えていたのが印象的でした。最後には、ここでこんなことをしていますと宣伝してくれたり、片づけを手伝ってくれたりする子どもが出てきて、学生とのかかわり合いが見られました。

参加者の声

あんなのができてカッコイイ。どうやって作るのか知りたい。つくれるようになりたいという声が聞かれました。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

やってもらうことによって、小さなお子さんにはこの距離のクリックや小さな星を指すことが難しいことがわかり、改善の余地があると思いました。子どもたちが自然に手伝ってくれたのが嬉しかった。待ち時間の時に早く替わりなさいと大人が子どもに言う場面があり、大人の配慮で子どもが途中で止めないといけないことをしないでいいシステムを考えられたらよかった。



分科会No.33

プログラム名 オトナも子どもも、みんなでasobi基地!!

団体名 asobi基地・愛知チーム 実施時間 午後

実施場所 産 4階交流室後側 参加者数 おとな9名 子ども14名

担当スタッフ スタッフおとな3名 スタッフ子ども3名
高木茂男、山平すづみ、牛島瞳、高木月夕美、高木昭花、山平かこ

実施内容

《目的》遊びを通して、子どもの遊ぶ権利、表現の自由、意見を表す権利を、知って、感じて、学んでもらう。

《何をやったか》身近にある様々な素材や廃材をつかって、とことん自由に遊び込む中で、お互いの表現の自由やおとなと子どもが人として平等である事の心地良さ、大切さを感じてもらった。スタッフが、関わりのサポートや場の空気感を作った。



印象に残った場面

大人も遊びに夢中になり、子ども達の遊びや発想に驚いたり、時には助け合ったりしながら、自分の作りたい物を作っていた。



参加者の声

普段から製作遊びは好きだが、こんなに生き生きと遊びを楽しんでいる姿を間近に見るのは初めてだった。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

もっと多くの人に、子どもの権利条約を知ってもらうために、普段のイベントにもasobi基地の四つのルールと権利条約の共通点や大切にしているポイントをわかりやすく伝え、発信していかないといけないと思った。



分科会No.34

プログラム名 もっと知ろう!もっと広めよう!こども基本法

～こども基本法と子どもの権利を子どもに関わる活動の軸とするために～

団体名 広げよう!子どもの権利条約キャンペーン

実施時間 午後

実施場所 産 3階32会議室/またはZOOMによるオンライン

参加者数 おとな36名 こども4名

担当スタッフ スタッフおとな11名 スタッフこども1名

FTCJ菅原、PIECES小澤、矢部、KNC高橋美和子、WVJ高橋、C-Rights甲斐田、SCJ西崎、山内、ACE杉山、成田、NCRC圓谷

実施内容

《目的》今年4月に施行されたこども基本法への理解を深めるとともに、どのように伝え、どのように活動に活かしていくのか参加者と深める。

《何をやったか》

■こども基本法についての講演

■自治体で子どもの声を聴きながら子どもの権利を保障・救済する取り組みについての紹介(川崎、名古屋の事例発表)

■質疑応答および参加者との意見交換

印象に残った場面

挙手してもらったところ、参加者のほとんどがこども基本法について知っていたが、自分の周りでこども基本法について話したことがある人はその半分以下だった。こども基本法の認知は広がってきている一方で、みんなが気軽に話題にできる状況にはないことを感じたため。

参加者の声

■小さい子には、どっちがいい?何が食べたい?と選んでもらうところから始めるといいという話から、小さなことから始めようと思いました。

■子どもたちの意見をきくこと、そこを大切にこどもをまんなかにおいて日々を過ごし、一緒に成長していきたいと思いました。

■全国の自治体で子どもの権利条例制定や救済機関の設置を働きかける活動で参考とさせていただきます。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

地域で活動している子どもやおとな、自治体の方など多様な参加者が集まった分科会でしたが、子どもの権利を大切にすると同時に、大人自身が自分の権利を知り、大切にすることの必要性をみんなで確認できた分科会になりました。



プログラム名 子どものけんり なんでもやねん!すごろく

団体名 子どもの権利条約関西ネットワーク **実施時間** 午後

実施場所 産 4階交流室前側 **参加者数** おとな15名 こども12名

担当スタッフ スタッフおとな6名 スタッフこども10名
小出、二葉、花田、工藤、西川し、西川こ、植月め、植月ふ、寺島、川田、荘保、関口、橋本、松田、片岡、二葉

実施内容

《目的》すごろくを楽しみながら子どもの権利条約に触れ、「なんでもやねん!」や「4つの権利」に気づく。振り返りを通じて「言っているんだ」「言えるんだ」に一層気づく。

《何をやったか》子どもたちの司会進行で、ゲームやアイスブレイク、全国フォーラム参加の報告。

大人による生まれたばかりの赤ちゃんがしあわせに育つために必要なことの間いかけ。

子どもたちの司会進行によるすごろくの遊び方説明。

すごろくをして、付箋に「自分のなんでもやねん」を記入し、お互いに振り返りをした後、できるだけ多くの人が発表をした。



印象に残った場面

親子での参加があり、保護者の方が子どもの声をしっかりと受け止めておられた様子や、わかものグループでの「言いたかったことが言えた」と発言がどんどん引き出された様子。



参加者の声

子どもたちの声を聴いて、大人が当たり前に行なっていること、言っていることが、子どもをないがしろにしていたり、苦しめていることが多くあるなど思った。

大人たちにこそ伝わる必要があると思う。

子どもの時の気持ちを思い出しながら、子どもの言葉を聞いていきたい・大人に届けていきたいと思いました。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

子どもたちの、スタッフとしての参加度が上がり、終わった時に次への意欲が高かった。東京フォーラムの参加に向けては、子どもたちにらせていく部分が多くてもいいと思う。受験と重なる子どもがいるけれど、次のリーダーが育っていると思いました。



プログラム名 広めよう!自治体による『子どもにやさしいまちづくり』の実践

団体名 (公財)日本ユニセフ協会・豊田市 **実施時間** 午後

実施場所 産 2階情報交換室 **参加者数** おとな48名(うち13名はオンライン) こども1名

担当スタッフ スタッフおとな10名

(公財)日本ユニセフ協会職員、豊田市こども・若者政策課職員

※登壇者:石井拓児(子どもの権利条約フォーラム2023inとよた実行委員会 実行委員長/豊田市子どもの権利擁護委員/名古屋大学教授)、木下勇(日本ユニセフ協会CFCI委員会委員長/大妻女子大学教授)、浅井泰博(町田市児童青少年課係長)、宇佐美由紀(豊田市こども・若者政策課課長)、釘宮順子(フリースペースK代表)

実施内容

《目的》子どもと最も身近な行政単位である地方自治体が、子どもの権利条約に明記された子どもの権利の実現を目指す取組であるユニセフ「子どもにやさしいまちづくり事業(CFCI)」を通じて、子どもの権利の実現に向けて行政はどのように取り組んでいくべきか考える。

《何をやったか》

■ 基調報告(木下勇:「子どもの権利を推進するのにCFCIが果たす大きな役割」)

■ 自治体や市民による事例発表(町田市、豊田市、市民代表)

■ パネルディスカッション:「子どもの権利をまちづくりにどう生かすのか」

印象に残った場面

自治体職員、市民、子ども自身など幅広い所属の方に参加していただくことができ、パネルディスカッションや質問を通じて自治体としての子どもにやさしいまちづくりに向けた取組について様々な立場の人で話し合う有意義な場となった。

参加者の声

CFCIについて知らないまま参加したが、取り組まれている自治体の話も聞けて、子どもの権利との関係が理解できた。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

仕組みだけではなく、実践を通じてPDCAサイクルを回していくことが重要であると思った。行政の独りよがりにならないように、市民や子どもと共に取組を進めていきたい。



分科会No.37

プログラム名 子どもの権利条約とこども基本法～国際的視点から

団体名 子どもの権利条約ネットワーク(NCRC) 実施時間 午後

実施場所 商 203会議室 参加者数 おとな13名 こども1名

担当スタッフ スタッフおとな2名
平野裕二、林大介

実施内容

《目的》子どもの権利条約を取り巻く国連などの国際的な動向、国内の動き(こども基本法、自治体における子ども(の権利)条例制定の動き等)について深める。

《何をやったか》2022年6月に、こども基本法およびこども家庭庁設置法が成立し(それぞれ2023年4月施行)、こども家庭庁は2023年4月から開設しました。こうした状況を踏まえ、特に、国際的な子どもの権利保障を取り巻く環境について詳しい平野裕二さん(NCRC運営委員・子どもの人権連代表委員)を講師に、国内外の子どもの権利条約を取り巻く状況について深めました。

平野さんからは、「子どもの権利の主流化」に関する国連事務総長ガイダンスノート、「子どもの権利影響評価」(CRIA: Child Rights Impact Assessment)、国連・子どもの権利委員会などの最近の動向、の3点について、丁寧に説明がされました。



印象に残った場面

2002年の国連子ども特別総会以降、子どもによる議論の場や、子どもの意見表明・参加の機会の重要性への意識が高まり、各国でも取り組みが始まっている。

参加者の声

国際的な議論は難しいテーマではあるが、分かりやすい説明で理解しやすかった

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

国際的な動向について、定期的に周知する機会を設けていきたい

子ども発企画

実施時間 11:00～16:00

実施場所 豊田産業文化センター
(1階多目的ホール＝「こどものまち」、1階交流サロン、2階多目的室、4階＝「こどものへや」)

参加者数 おとな約200名 こども約200名

担当スタッフ 葛山有咲、金山紀子、黒柳佐智代、田島真実、黒田佳代、渡辺裕太
実行委員会子どもスタッフ11名
(豊田市子ども会議スタッフ5名、大学生サポーター12名、子ども委員60名)

実施内容

子どもたちの「やってみたい!」「自分たちにもできるんだ!」「当日フォーラムにはこんなものが必要だ!」という思いを、子ども主体で企画運営していく企画。企画の準備を進める過程で、子どもの権利条約に書かれた様々な権利を知り、体感し、周りの大人も伴走者としての学びや理解を深めていく機会となりました。

実施事項

■実行委員会の子どもたち企画(6つ)

- ①大人も子どもも楽しめるレジンショップ
- ②ゲームセンター
- ③じんろうゲーム
- ④おえかきコーナー
- ⑤子どもきゅうけいしつ
- ⑥ダンボールおばけやしき

■豊田市子ども会議の子どもたち企画(8つ)

- ①誰でもなんでも相談室
- ②豊田の端材を使ったワークショップ・豊田の魅力PR
- ③推し活スペース
- ④自主制作アニメ上映
- ⑤ザ・おばけやしき
- ⑥クイズラリー
- ⑦バザー・SDGsポスター資源箱設置
- ⑧子どもが考えた豊田と権利のお菓子・グッズ販売

上記計14の企画を「子ども発企画」としてまとめて実施。各コーナーには、企画発案者と当日スタッフがつき、来場者への接客などを行いました。



レジンショップの様子



バザーの準備



自主制作アニメ 上映中

印象に残った場面

■ 積極的に呼び込みをしたり、来場者と関わりを持ったりすることで、子どもたち自身が本当に楽しんで企画運営をしている姿が印象的でした。また、フォーラムに参加することで他市の子どもたちと関わる機会や、自分自身の子どもの権利について知り、考える機会となったとの意見がありました。

■ 自分たちのことだけでなく、他のチームのことも考えて行動している子がいたのが印象的。

■ 商品がなくなった後に来たお客様に対して、精一杯楽しんでもらおうと、大人サポーターに相談しながら対応する姿がみられました。

■ 前日まで、大人サポーターから問われてやっと動いていた子が、当日は自ら判断し、生き生きと動いている姿に、感動し、子どもの底力を改めて感じさせられました。

参加者の声

■ 子どものことを一生懸命考えてくれる大人が、こんなにいるんだということがわかってうれしかった

■ 来年の東京開催に行きたい

■ また来年もやりたい

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

■ 「大人は伴走者」と言っても、どんな風に伴走するか、その走り方はとても難しいと感じた。

■ 子どもには大人に負けない力があると分かっていたつもりだが、今回改めてその力を目の当たりにして、大人が思っている以上に子どもには素晴らしい力があることを確信した。大人がこの事実を受け入れ、もっと子ども達に意見を求め、それを取り入れていくと、素晴らしい豊田市になるのではないかと思った。

■ (子ども会議より)：フォーラムへの出展が他市の子どもや大人の意見や活動を知る機会となったことで、子ども自身が刺激を受け、「もっと自分の意見を言いたい」「周りのみんなにも子どもの権利を知ってほしい」という感想がたくさんあったことがうれしかった。今後の子ども会議の運営にも生かしていきたい。



こどものまち 入口



こどものまち 会場の様子



片付け後の振り返り



子どもの呼びかけで集まった輪飾り

会場に置いた回収箱

おやこであそぼう!ほっとスペース

実施日時 2023年11月25日(土) 13:00~16:00 2023年11月26日(日) 10:00~15:00

実施場所 1日目:豊田市コンサートホール 多目的ルーム
2日目:豊田産業文化センター 2階図書情報コーナー

参加者数 おとな60名 こども60名

担当スタッフ スタッフおとな20名
森のたまごメンバー、つなGOメンバー、釘宮順子

*おやこであそぼう!ほっとスペースは、1日目・2日目とも同じ内容で実施しましたので、本ページに両日まとめて記載します。

■ 実施内容

《目的》おやこやお子さん連れでフォーラムに来られたお客さんたちが、楽しんだりほっとひと息ついたりできる空間を作りたいという目的(想い)で実施しました。

《何をやったか》2日間とも、プラレールや木のおもちゃ・間伐材のつみきで子どもたちが自由に遊べるスペースを作りました。同じ空間に、1日目は全体会の様子が中継されるモニターを、2日目はお菓子やジュースを手に取りながら子どもの権利についての絵本を読める場所と、子育てのジレンマを書き込んで共有する掲示物を設置しました。遊んでいる子を見守りながら大人がひと息つきながら権利について考えられるようにしました。

■ 印象に残った場面

特にプラレールが人気で、入ってきた子どもたちが一目散にプラレールめがけて走っていく様子が印象に残りました。2日間とも遊びに来てくださったおやこの方もいました。

■ 参加者の声

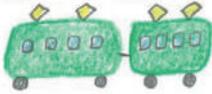
「基調講演を聞いたかったけれど会場には子連れで入りづらいので、ここで子どもを遊ばせながら聞くことができよかった」と言っていました。

■ 今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

このスペースは、子育て中のママたちが中心となり企画しました。フォーラムだからこそ、まだごろごろ・よちよちしている赤ちゃんやそのパパ・ママも、それぞれの権利を大切にして過ごしやすい空間を作りたい、そんな想いで意見を出し合ったので、当日来てくださった方たちが笑顔でゆっくり過ごしていただき、うれしかったです。

まだ言葉が通じない子どもの意思や権利を普段の生活の中でどう尊重するか等、準備の中で話し合い、私たちスタッフ自身もママとして学べたことがたくさんありました。ここで得たつながりや知識をまた今後の子育てや市民活動などに生かしていきたいです。

おやこであそぼう!



ほっとスペース

～おやこであそぼう! ほっとスペースができるまで～ このスペースは、子育て中のママたちから「中心」となり、普段感じている悩みを出し合って考えました。

ママのお悩み①

子連れて外出するのはやっぱり大変。
泣いたりすると周りの目も気になっちゃう。
離乳食やおやつが食べられるスペースがなかなか
困っちゃうなあ。

子育て中の私たちだからこそ、フォーラムに来てくれる
お客さんと一緒に来る赤ちゃんや小さな子も、
みんなが過ごしやすい空間を作ろう!!

「おやこであそぼう! ほっとスペース」
を作ることに!

ママのお悩み②

子どもの意思に寄り添ってあげたい気持ちもあるけど、
お言葉は通じないし難しいなあ。
みんなどうやってるんだろうか...?

みんなで子どもと関わるうえで大切に
していることを話しあってみました。

私たちが保育
の中では
こうやってるよ!!
私はこう
してるなあ。
フなGOXが...
お互い共有できて嬉しいなあ

* 子どもたちにとっては、自由にあそべるスペース

プラレール

間伐材の
おもちゃ

フなGOの
木のおもちゃ



* ママやパパにとっては、ほっと息つけるスペース

お菓子やジュースをのみながら
本をよめることができるように!

子育ての悩みやヒントも
共有できる場示も



子どもの関わり方で大切にしたいことを
まとめて、ほっとスペースに来てくれた
ママさん、パパさんに見てもらおう!

このスペースは、子どもも大人も
気持ちよく過ごしてもらおう!
みんなで子どもを見守って
ママやパパが気を使わずに
場所にしていね!



この会場で大切にしたいこと

ポイント 1 子どもの行動を まず、受け止めてみる	ポイント 2 子どもの目線で 語りかけてみる
赤ちゃんがおもちゃを 探げている	赤ちゃんが 遊び終わったらお片づけ をしている
音が鳴ると驚いたり泣いたり 離乳食が食べられない おしゃべりができないことなど、 こころを伝えられるよう 話しかけてみる	ママが赤ちゃんの目線に 一緒に行ってみると 赤ちゃんの目線はママと 違うことがわかって 安心できる

みんなで守ろう
赤ちゃんや子どもの権利

赤ちゃんや子どもは「この世界は自分」の心を持って生まれてきます。この会場で、ママやパパが育つに場を使います。子どもが安心して育つ場所をみんなで育つ権利を大切に守りたいと思っています。

「子どもの権利フォーラム」だからこそ、赤ちゃんやそのまわりの
大人も対象にしてい!

ゆかいに どんちゃか 大道芸

実施時間 12:00～16:00

実施場所 豊田産業文化センター 1階産業交流コーナー

参加者数 おとな150名 こども200名

担当スタッフ スタッフおとな8名
弥田美雪、柴田友彩、滝沢史恵、青木久美

実施内容

《目的》

- ① 普段「子どもの権利条約」に関心を持っていない人にも、フォーラムに足を運んでもらう。
- ② 今の子どもたちの生活の中で失われがちな「生の舞台」。集まった人が、好きも嫌いも、参加する・しないも自分で選び、その時限りの空間を創り出す一員となることを体感する。

《何をやったか》

- プロのパフォーマーによる大道芸・弾き語り等のライブ。
- 集まった人がパフォーマンスを披露できる場の設定や、参加型のワークショップ。

印象に残った場面

- 分科会を開催している子たちが、内容や空き状況のお知らせに、たくさん来てくれたこと。
- 大道芸に関わった人以外も、自然と交流ができ、客席の人たちも熱心に話を聞いていた場面。

参加者の声

「会場がとても温かい雰囲気でした。やりたいこと・言いたいことが表現できる、この雰囲気が少しずつでも広がっていけば、温かい社会になりそうだと期待が持てました。」
「こんなにいいフォーラムが豊田で開催されてめっちゃ嬉しい。来年の東京も行ってみたい！」
という声をいただきました。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

学校に行かないという選択をしている子たちが、想いをのせて作った歌。当日、この場で発表すると決めて、どんな風にやりたいかをきちんと伝えてくれたこと、飛び入りのパフォーマンスにも参加してくれたことが、嬉しかったです。楽しい時間でした。準備段階では不安があった部分も、当日集まった人たちの関わりで、良い雰囲気が創られていきました。

子どもたちに、行きたくない場・気持ちを表現したくない環境があるならば、問題があるのは子どもたちではなく、環境の側だと確信しました。温かい場は、温かい人で創る。子どもを見守り、必要以上のこと・口出しをせず信じる。これまで取り組んできたことへの自信と、遊び心を持って、文化芸術に触れる機会を作っていきたいです。

ゆかいに

どんちゃが

大道芸

2023.11.26(日) 12:00~16:00 豊田産業文化センター 1階産業交流コーナー

プロの創造団体の方々をお招きし、アートを楽しみました。
"むれるつながる あけあう たすけあう。ぶんか げいじゅつは、じんるいの ちから"
「あそんでるばあいです！」と掲げて、集まった人たちで「生の舞台」を
創り出していきます。



1番手、

山本光洋さんのパントマイム

"ちんどんや"の呼び込み効果と、光洋さんの惹き込む力で、あっという
間にたくさんの方が集まってくれました。光洋さんのパフォーマンスは、
会場の子もたちから、どんどん声を引き出し、やりとりが活発!!

ましゅ & Keiさん

「しっばいは せいちょうのもと」・・・伝えたいメッセージを、
パフォーマンスで表現。客席からの応援を力に、
難しい技にチャレンジする姿を見せてくれました。



MUSIC CROWN



劇団うりんこ 新美豊さん

集まった人たちでワークショップを楽しみました。
少数派を予想するゲーム「ワードウルフ」ほとんど発言しなかった子に
対して、「その場にいる選択をしてくれたことを尊重する」のだそう。
1人1人の様子を、丁寧に受け止める姿勢が印象的でした。

岡田健太郎さん

「うまれてきてくれて ありがとう」他、歌で、たくさんの温かい
メッセージを届けてくれました。優しい語りと笑いもたっぷり。
会場の声を拾って作る「しりとりソング」も大盛り上がり!!



シンガーソングライター



伝承あそび

るぱんとゆきちゃん

独楽やけん玉で遊べるスペースを作り、出番までの間、訪れた人に、やり
方を伝えてくれました。息を呑む様々な技に、みんな前のめり。この後、
客席からの飛び入りパフォーマンスが続きました。

お招きした創造団体さんは、
ずっと以前から、「子どもの権利」を
大切に活動されている方ばかり。
そのことがしっかりと染みついた
人たちで創る空間は、それはそれは
温かいものでした。



飛び入りパフォーマー、演者さん、観客、スタッフで記念撮影★



大道芸フェス出演者のお仲間からフォーラムに届いたメッセージを当日会場に飾りました。
 "子どもの権利"という言葉をあえて使わずとも
 体現している方々、"子どもの声をきく"実践者の方々の
 言葉たち。

創作だからできることがある、未来を変える力がある、
 人を救うこともある。アート(生の舞台)を通して
 子どもとそばにいるおとなへ伝えたい想いです。

「今の楽しさが明日の楽しさを作る」

そして楽しさを知った子どもたちが大人になって、さらに楽しい世の中を作ってくれば、
 それはもうみんなが幸せな世の中になるんじゃないか、と思ったりもしています。

世界中のすべての子どもたちが、衣食住を満たされ、教育、芸術を楽しみ、
 人、自然を愛し、愛されて、心健やかに人生を謳歌できますように。

まずは、わたしから。まずは、あなたから。

子どもたちが 確かに持っている からだ丸ごとで真実を見抜く力

他者を受け入れ 共に在ろうとする力 五感いっぱい受け止めた思いを
 声に 言葉に 音楽に 造形に 動作に 存在そのものに託して 押し出す力

愛情をもらわないと、愛は伝えられない。優しさをしらないと、優しい行動はできない。
 大切にされないと、大切の意味が分からない。守られなければ、守れない。

自分はここにいる ちゃんと生きている と

子どもたち一人一人が放つ その宝物のような光をその可能性を信じる大人たちの繋がりをもっともっと と願う

子どもたちが歩くその道端にアートという光ったり変だったりするものを置いておく

子どもたちが、誰かを傷つけず、自分が思っていることを自由に伝え、
 やりたいことを心行くまで出来る世の中になることを、強く望みます。

オレにロックを歌わせろ オレにロックを歌わせろ
 大きな声は必要ない ひっくり返っても構わない

ガザ、ウクライナの戦争反対！

私たちは、平和を願い子どもたちの文化活動への権利を尊重し共に歩みます。

芸術舞台はその場にはないと伝わらない、目に見えないエネルギーがあります！！

ループして ループして ループした
 その先で 笑い合えますように

真剣に遊んで、いっぱい失敗、これ、私の舞台創りの基本・・・
 みんな子ども達が教えてくれる!!

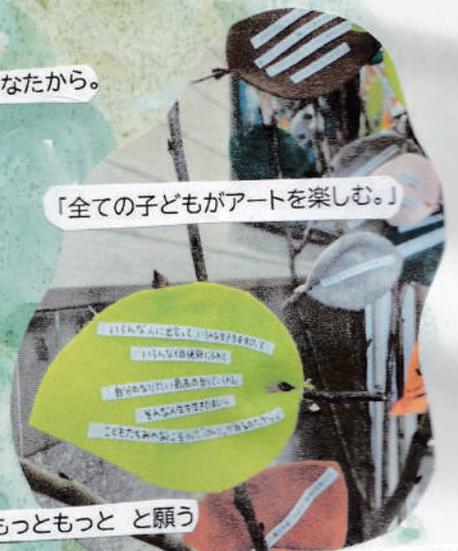
出会いとつながり、体験の積み重ね。それは、目にはささやかに見えなくても、確かにその人を形成する細胞となる

世界中のこどもたちがかえるくんのよう、明日を信じて寝床で寝られますように祈っています

子どもの権利条約は、おとなが守る約束です。子どもの権利条約を、子どもは知る権利があります。
 知らないことは、誰だって分からない。

ゆっくりゆっくり はぐくんでいきたいですね

すべての子どもが、私たちの宝物です。



「全ての子どもがアートを楽しむ。」

パネル展示

実施時間 10:00~17:00

実施場所 豊田産業文化センター 1階:産業交流コーナー・ラウンジ・交流サロン 2階:交流コーナー

担当スタッフ 小松昌世、鈴木牧穂、三浦明美

実施内容

《目的》

団体の活動や活動の中で見えている問題など、展示の形で多くの方に伝える機会にする。

《何をやったか》

■フォーラムの実行委員、および分科会開催団体によるパネルの展示

23団体が参加

- 実行委員会 10団体
- 分科会開催団体 12団体
- 市役所 1団体

■各団体の活動内容や活動の様子、活動からみてきたこと、見る人が参加できるもの、動画や音楽を交えたものなど、それぞれ特色のある展示があった。

印象に残った場面、参加者の声

■夢カフェのパネルは、活動内容が一目でわかる、まるでここだけ学会だなと感じた。学会会場まで足を運ばない方たちにも届くという素敵さを感じ、勉強になった。Sokkaの会のパネルは温かく、素朴な感じ、可愛かった。こういう活動をしているんだな、素敵だなと思った。こことよのパネルで自分が思うことにシールを貼っていくのが、居場所や安心して生きていくことにシールが多く貼られていて、大事だけどころか切ないと感じた。

■それぞれのパネルで色々な展示方法がされており、展示の参考にもなった。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

分科会開催団体と実行委員団体でこれだけ集まったことに驚いた。

パネルを置ける場所、各階の異なる閉館時間などから設置できる場所が限定され、他の団体に声をかけることができなかつたのが残念だった。

主催している会の参加者や他でつながっている人たちに、フォーラムを開催することやパネルを展示することを伝えたところ、パネルを見に足を運ぶ人が複数いた。自分が壁を作らず広く声をかけることで、周りも動くことを実感した。



クロージング

実施時間 16:15～17:15 **実施場所** 豊田産業文化センター 1階小ホール

参加者数 おとな156名 こども103名

担当スタッフ 司会・進行：磯村美沙希、鈴木佳代 舞台裏方：伊藤佳祐
受付：高橋弘恵、猪飼由美子、山本貴美子、中村栄子
撮影・配信・記録：学生ギルドの皆さん 会場・その他：安藤順、酒井美輝、菅井真紀

実施内容

《目的》2日間のフォーラムを振り返るとともに、大会テーマに基づいて、感想や意見を出し合い、深めて味わう。そして、今後の個々の活動や生活に意識づける。

《何をやったか》

- 1 おはなしの前のリラックスタイム♪
- 2 スライドショーでふりかえるフォーラムの2日間
- 3 登壇者の自己紹介(舞台上左より)
宮田祥寧：全大会子ども司会者
宮田泰朋：全大会子ども司会者
清水幸敬：全大会子ども司会者
林大介：子どもの権利条約ネットワーク事務局長
釘宮順子：副実行委員長
宇佐美由紀：こども・若者政策課課長
石井拓児：実行委員長
- 4 みんなの「○○」をきこう・はなそう
～あなたは何かを感じた？明日から何をする？～
- 5 実行委員紹介
- 6 来年度開催地の発表



印象に残った場面

登壇者の方に椅子ではなく舞台上に座って話してもらったことで、会場の方との一体感が出たと思います。会場からもたくさん、それも子どもたちから何人も感想や意見を言ってもらえたことが良かったと思います。

参加者の声

■子どもの権利条約フォーラムのテーマに基づいた、参加者の方々の次への決意が印象的でした。それぞれが今の自分からどう変わっていくのかを具体的に話される様子を、会場の皆さんが共感をしており、終わりに相応しい時間になったと思いました。決意を実行に移していく大切さを知ることが出来ました。

■企画した方の意図がふんだんに入っているクロージングだったと思いました。例えば、名のある方に、立つじゃなくフロアと同じ目線で座っていただくとか、こどもに意見を聞くとか。そしてそれだと大人が言いにくいのもわかっていて、感想いう時に大人がんばってください、のお声がけも。そして、うっかり熱くなって話が長くなった場合への対処も、子どもががされていて、あたたかい空気でした。

■自分が次に何をするかという視点での意見交換だったので、どの方の話も心地よかったです。こんな機会をありがとうございました。

■配信チームから、機材スペースの確保不足や不測の案件の追加など、いろいろ困ったことがあったと聞きました。全体会のパネルディスカッションに出た方から「安易に引き受けたけどこんな大きな舞台だと思わなかった」という感想が出ていましたが、配信チームも同様にイベントの規模に驚いたそうです。

■その構成に、名のある人だけではなくフロアの意見も子どもの意見も大人の声も大事にしてくださることが伝わってくるクロージングでした。

■多様な世代の方々の、知ったからこれから自分はどうしていきたいという感想のシェアがとても良かったです。

■次に向けてのバトンを丁寧に渡しておられること、豊田にもこうやって渡してくださって、そのターンを担ったのだなということがよくわかるクロージングでした。

■子どもの権利を守る、とりたてて弱者と明らかにわかることを言うのではなく、あたりまえに自然に浸透し、大人も子どももいきいきする街になるといいなと思います。子どもの権利を尊重するために大人が我慢する、という構図ではないものを(もちろん現状肯定でもなく)創造性を駆使して大人同士、子ども同士、そして世代を超えたもの同士の幸せなありかたを新たに創っていけたらと思います。そこに希望をもっていたいなと感じています。

■ 今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

クロージングの時間の前の写真撮影やスライド編集など時間に追われる状態で担当の方には負担が大きかったと思います。そこを担当してくださった方々に感謝です。もう少し担当者の人数がいたら、また事前の打ち合わせの時間も欲しかったなと思います。

当日になって、1日目の司会チームの子どもたちに、登壇してもらったり、タイムキーパーをしてもらったり、閉会の言葉を言ってもらいました。

今回の実行委員が舞台上でアーチをつくって、次回開催地のみなさんをお迎えすることもできました。

その場でみんなで力を合わせてつくり上げることができたと思います。



舞台端に座る登壇者



次の開催地の方にバトンタッチ

みんなの「〇〇」をきこう、はなそう

クロージングの会場で出た発言をまとめてみました！

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

当たり前になるといいな

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

未来に繋げていこうかな
いきたいな

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

世界観が優しいなどが、あったかいなどが
こういうふうで世界は
できているのかもしれない

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

新たな発見ができたので
いいなと思いました

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

子どもの権利を知らない人が
いっぱいいることに
気づけた

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

大人でさえも「権利」って
言いにくい世の中を変えていく

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

「教えてあげる」
から遊び人になるへ
自分をもっと遊ばなきゃだめだな
って思った

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

新たな発見
知るのが大切なんだな

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

当たり前になるといいな

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

それぞれが思っている道で
頑張っていっしょの方が集まって
今回みたいな会ができたから
今後に繋げていきたい

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

権利を知っている人が
広がっていくと
社会全体がもう
変わっていくんだな

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

知ったことをさりげなく話していくその輪が
ずっとつながっていくことで、じわりと
世の中が変わっていくのかな

キッチンカーマルシェ、総合インフォメーション、物販

実施時間 10:00～16:00 *総合インフォメーションは9:00～17:00

実施場所 豊田産業文化センター 1階交流サロン *キッチンカーはピロティ

担当スタッフ キッチンカー:矢藤亜矢子

総合インフォメーション:長谷由香、種村香絵、小松昌世、鈴木牧穂、鈴木英衣

物販:鈴木英衣

目的

《キッチンカー》

フォーラム来場者やスタッフの昼食を確保するとともに、市外、県外から来場した人に豊田市ならではの食べ物を体験してもらうことを目的として実施した。

《総合インフォメーション》

■分科会を事前申込みしていない来場者のために、当日参加できる分科会や企画の情報提供をするため。

■会場が広く、2ヶ所に分かれていたので、会場の案内や迷子・落とし物など様々な問い合わせに対応するため。

■当日パンフレットの配布をするため。

《物販》

子どもの権利条約や子どもの権利の普及・啓発促進のため。

実施内容

《キッチンカー》

■キッチンカー 4 店舗の出店(キッチンカー製造会社の方に募集や取りまとめを依頼)

■五平餅店舗の出店(上記とは別に個別で調整を実施)

《総合インフォメーション》

■分科会開催団体の受付時に、当日受付で参加できるか否かを確認して、当日参加できる分科会を掲示した。また、当日パンフレットの配布をしながら、会場内の説明、迷子や落とし物など様々な問い合わせに対応した。



キッチンカー



総合インフォメーション



物販

《物販》

分科会開催団体や実行委員会構成団体で、子どもの権利や子どもの権利条約の普及啓発となる書籍や物品の展示・販売をおこなった。各部屋での販売が困難であったのと、分科会に参加していない来場者やスタッフも手に取れるように、1ヶ所のオープンスペースに物販ブースを設置した。

印象に残った場面

「色々な所でイベントに参加していますが、こんなにいい分科会が揃っていることに驚きました!またありますか?」と聞かれたので「来年は東京で開催予定です。」とお答えしました。とても嬉しいお声掛けをしていただきました。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

《キッチンカー》

■費用をかけずに来場者の昼食を準備することができたため、実施して良かったと感じる。また、スタッフについては事前に取りまとめ注文を依頼したことで、並ばずに昼食を得ることができた。

《総合インフォメーション》

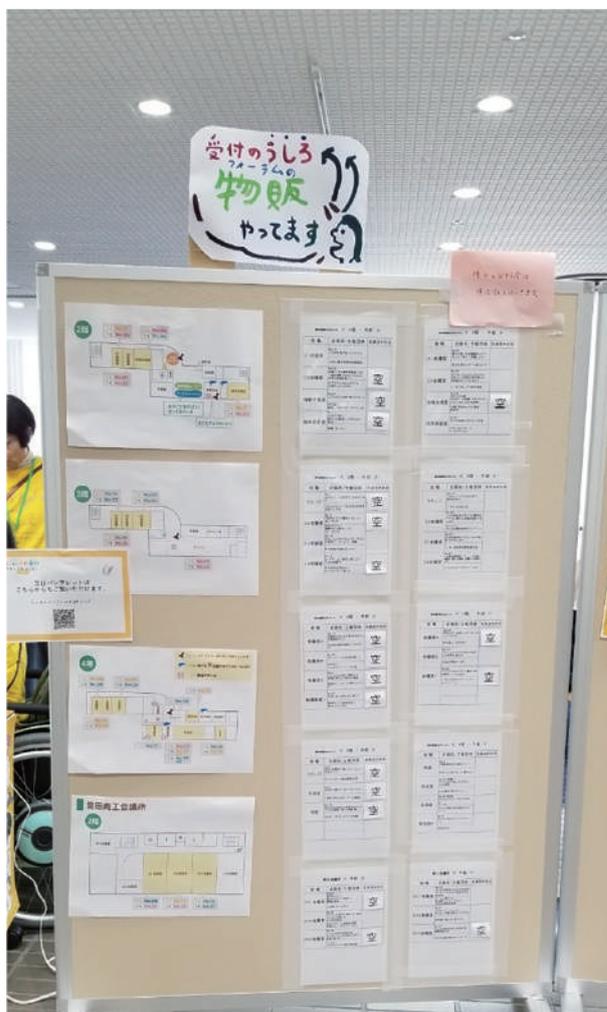
■立ち寄る人に、親子連れ、子どもだけが多かったが、様々な年齢、世代の人が来場してくれた。

■当日参加の人が思ったより多かったが、どの子どもの人にも案内出来る所(企画)があり、案内するとその子その人が「行きたい」と興味を示してくれたので、いろいろな企画があって良かった。

■当日パンフレットは前日にも配布していたため、一律配布しなかったのが、パンフレットの問い合わせが多かった。配布場所をわかりやすく表示すると良かった。部数も不足してしまった。



豊田の郷土料理 五平餅



分科会の空き状況掲示板

みんなの「〇〇」ツリー

実施日時 25日(土)・26日(日) 終日

実施場所 1日目:コンサートホール ホワイエ / 2日目:豊田産業文化センター 交流サロン

参加者数 354名

担当スタッフ 猪飼由美子、鈴木佳代、葛山有咲、山本貴美子、中村栄子、木村宏江、磯村美沙希

実施内容

《目的》大会テーマを自分事として捉える時間を持つ。思うだけでなく宣言することで、フォーラム後、それぞれの生活の中での行動につながることへの期待も込めて。

《何をやったか》大会テーマの〇〇に当たる部分や、気になる条文を付箋に書いてもらい、他の人と共有できるよう、手作りツリーに貼って、参加者に見てもらった。フォーラム後も交流サロンに展示してもらった。

印象に残った場面

■こちらから声をかけなくても、参加者の方からツリーに来て付箋に書いて貼ってくださることが多かった。

■想像以上に子どもの参加が多く、〇〇のメッセージもその人その人の思いとともに手書きの文字からも伝わってくるものもあった。

今後に生かしていきたいこと、担当スタッフの感想

■これからも〇〇を考え続けていきたい。

■5歳くらいの子どもさんから高齢者の方まで、大勢の方が参加して下さって嬉しかった。

■子どもが積極的に書いてくれたことが嬉しかった。

■嬉しそうな表情で書いてくれた子もいた。何を書こうか迷う子もいたが何か書きたいと思う気持ちが嬉しく思った。



『ほかに、こんな〇〇が…☆』

幼くてもじっくり気持ちを聞く。

共に生きる

大切に育み、ふくらませる。

子どもの権利をもっと地域の大人に広めます！

子どもは道具じゃない

子どもアポドカー
推し進めます!!

行動できる自分に

子どもの顔を見て、子どもの言葉をきちんと受け止めます。

子どもたちに説明できる大人になる!!

子どもの権利条約を看護学生に伝えます!!

つたえる!!

子どもが好きなものは大人が否定しないでほしい

子どもたちが感じていること、思っていることを自由に言いやすい大人になる努力をします!

おとなも権利の主体として自覚を持とう!

知って♪感じて♪子どものけんり 〜「しってる」から「〇〇」へ〜

「〇〇」の部分にはいる
あなたの言葉を葉っぱに
書いてみよう♪

書いたらツリーに貼りに行こう♪

1/25(水) 豊田市コンサートホール10階 舞台ホワイエ
1/26(木) 豊田市産業文化センター1階 青少年センター
(玄関正面の青いじゅうたんエリア) 交流サロン

卒当日に配布されたパンフレットです卒